

区支え合いのまち推進計画の 平成27年度の推進状況 ～地域の取組み（共助の取組み）～

千葉市保健福祉局地域福祉課

～この資料の見方について～

「支え合いのまち千葉推進計画」第5章(P61～)では、地域福祉の推進に必要な「自助」「共助」「公助」の3つの活動のうち、地域が主体となって実施する共助の取組みを掲載しています。

この共助の取組みは、6区それぞれの区計画に基づき、推進するもので、9つの「取組みテーマ」に分類しています。本資料では、各地区部会エリアが重点取組項目として設定した項目に対して、その推進状況として、「実績」、「達成状況」などを区ごとに記載しています。

基本目標	区分	施策の方向性	取組項目
ともに支えあう地域福祉社会を創る	市の取組み（公助の取組み）	1 利用しやすいサービスの実現	(1) 情報提供の充実
			(2) 相談や苦情の受付体制の充実
			(3) サービスの質向上と提供体制の充実
		2 暮らしを守る取組み	(4) 人権を尊重する取組み
			(5) 要支援者への支援
			(6) 生活困窮者への支援
		3 民間との連携協働と活動支援	(7) 民間との連携とコミュニティビジネスの促進
			(8) 千葉市社会福祉協議会の活動支援
		4 交流の機会創出と社会参加の促進	1 (9) 交流の機会創出と社会参加の促進
			2 (10) 健康づくり
		5 支え合いの仕組みづくり	3 (11) 相談体制と情報提供の充実
			4 (12) 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化
			5 (13) 見守り体制の構築
			6 (14) 防犯に対する取組み
			7 (15) 防災に対する取組み
		6 福祉教育と人材育成	8 (16) 福祉教育・啓発
			9 (17) 人材確保とボランティア活動の促進
		7 暮らしやすい環境づくり	(18) まちの基盤整備
	（共助の取組み） 地域の取組み	1 中央区の取組み（中央区支え合いのまち推進計画）	
		2 花見川区の取組み（花見川区支え合いのまち推進計画）	
		3 稲毛区の取組み（稲毛区支え合いのまち推進計画）	
		4 若葉区の取組み（若葉区支え合いのまち推進計画）	
		5 緑区の取組み（緑区支え合いのまち推進計画）	
		6 美浜区の取組み（美浜区支え合いのまち推進計画）	

進捗状況の総括

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）

主 な 成 果	・目標に対する達成状況について、(A)の割合が8割を超えているため、概ね順調に推進することができた。 ・見守り体制の構築については、実施地区部会エリア内の自治会実施割合が、着実に伸びている。また、地区部会が自治会等と連携して、各サロン等を開催し、地域住民同士の交流の機会の提供に努めた。 ・避難所運営委員会・自主防災会では、年1回以上訓練を実施し、地域住民の防災・防犯に対する意識の高揚を図っている。
今 後 の 課 題	・担い手の不足 ・町内自治会（役員の交替）、関係団体との連携強化 ・活動拠点の確保 ・継続的な活動資金の確保

「支え合いのまち千葉推進計画」の第5章に掲載している取組みテーマの内容。

各地区部会エリアの取組項目について、達成状況の集計を記載しています。

◆取組みテーマ別達成状況		【達成状況の目安】 S: 目標を上回った。 A: 概ね目標を達成した。(8～10割) B: 一部目標を達成した。(5～7割) C: 大きく目標を下回った。(～4割)	
取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況
1 交流の機会創出と社会参加の促進	10	・区内の地区部会数16のうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で、延170回（実施地区13地区で、延400回）、子育てサロンは、重点取組地区6地区で、延101回（実施地区15地区で、延241回）実施した。 ・地域住民がいつでも立ち寄れる交流の場（月～土曜日）を提供（1地区）。	S 0 A 10 B 0 C 0
2 健康づくり	2	・散歩クラブは、重点取組地区2地区で、延103回（実施地区6地区で、延137回）を開催するとともに、いきいきサロンでは健康体操等を取り入れ高齢者の健康維持等を図った。	S 0 A 2 B 0 C 0

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

各地区部会エリアの重点取組項目数の合計。(1つの地区部会エリアで、同じ取組みテーマの取組みを複数実施した場合には、複数回カウントしています。)

進捗状況の詳細

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）			【取組みテーマ】 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進		
地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成状況
都地区部会エリア					
【人口・世帯数】 9,150人、4,488世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 23.5% 【地域の特徴】 〇都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。 千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	5	各町内自治会と協議を続け、ひとり暮らし高齢者が安心して地域で暮らせるよう、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。 見守り体制が整うまでは、防犯パトロールにより、地域の見守りを行う。	10町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、月1回、声かけによる見守りを実施している。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動は行っている。 地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対し、見守り活動への理解を求めたが、見守り活動を実施する町内自治会の増加には至らなかった。	B
	⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	1	地区部会が、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図るため、月1回、いきいきサロンを実施する。	地区部会が、月1回、65歳以上の高齢者を対象に、健康体操や手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。	A
	⑨ 子育てサロンの充実		地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月1回、子育てサロンの充実を実施する。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や育児相談、絵本読み聞かせ等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A

地区部会エリアの概要。

区計画における取組み番号

目 次

1. 中央区	…	1ページ
2. 花見川区	…	11ページ
3. 稲毛区	…	17ページ
4. 若葉区	…	27ページ
5. 緑区	…	39ページ
6. 美浜区	…	43ページ

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

主 な 成 果	・目標に対する達成状況について、(A)の割合が8割を超えているため、概ね順調に推進することができた。 ・見守り体制の構築については、実施地区部会エリア内の自治会実施割合が、着実に伸びている。また、地区部会が自治会等と連携して、各サロン等を開催し、地域住民同士の交流の機会の提供に努めた。 ・避難所運営委員会・自主防災会では、年1回以上訓練を実施し、地域住民の防災・防犯に対する意識の高揚を図っている。
今 後 の 課 題	・担い手の不足 ・町内自治会(役員の交替)、関係団体との連携強化 ・活動拠点の確保 ・継続的な活動資金の確保

◆取組みテーマ別達成状況				
【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 A:概ね目標を達成した。(8～10割) B:一部目標を達成した。(5～7割) C:大きく目標を下回った。(～4割)				
取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	10	・区内の地区部会数16のうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で、延170回(実施地区13地区で、延400回)、子育てサロンは、重点取組地区6地区で、延101回(実施地区15地区で、延241回)実施した。 ・地域住民がいつでも立ち寄れる交流の場(月～土曜日)を提供(1地区)。	S	0
			A	10
			B	0
			C	0
2 健康づくり	2	・散歩クラブは、重点取組地区2地区で、延103回(実施地区6地区で、延137回)を開催するとともに、いきいきサロンでは健康体操等を取り入れ高齢者の健康維持等を図った。	S	0
			A	2
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	4	・全地区部会で広報紙を発行。重点取組地区では、発行回数増やホームページにより情報提供の充実を図った(2地区)。 ・関係団体が連携し、地域課題に対応するための環境づくりを実施(2地区)。 ・避難行動要支援者マップの更新(1地区)。	S	0
			A	3
			B	1
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	10	・「地域運営委員会」が2地区で設立された。なお、2地区部会が合同で、1つの「地域運営委員会」を立ち上げる準備中。 ・6地区が、災害時に備えた避難訓練を実施。なお、「避難所運営委員会」が4地区で設立済み。	S	0
			A	8
			B	2
			C	0
5 見守り体制の構築	13	・14地区で見守り活動に取り組んでいる。重点取組地区13地区のうち、11地区で見守り活動を実施し、1地区では、見守り活動を開始する準備が整い、1地区では、見守り活動を開始する第一歩を踏み出した。	S	0
			A	10
			B	3
			C	0
6 防犯に対する取組み	7	・4地区で、学校の登下校時に合わせたセーフティウォッチャーを実施。 ・青色回転灯装着車によるパトロール、児童向け安全教室、熟年者交通安全教室などを実施し、防犯対策等に取組んだ。	S	1
			A	5
			B	1
			C	0
7 防災に対する取組み	10	・6地区で、災害時に迅速な非難が出来るよう、避難訓練及び防災訓練等を行い、うち3地区では、災害時に支援を必要としている人の避難支援体制を構築している。 ・4地区で、防災訓練や備品点検を行い、防災に対する意識の高揚を図った。	S	0
			A	7
			B	3
			C	0
8 福祉教育・啓発	9	・1地区で、「放課後子ども教室」を実施し、子ども達が心豊かで健やかに育まれる環境づくりに努めている。 ・2地区で、福祉に関する講座等の受講機会を提供。 ・6地区で、福祉教育の一環として車椅子体験及び敬老会に参加する機会を提供し、高齢者等との交流を図った。	S	0
			A	8
			B	1
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	5	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする、助け合い活動について、重点取組地区3地区(実施地区5地区)で取り組んだ。 ・地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区2地区(実施地区9地区)で取り組み、受講機会を提供した。	S	0
			A	5
			B	0
			C	0
合 計	70		S	1
			A	58
			B	11
			C	0

<参考>

◆中央区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年7月28日(火)	・本協議会における推進体制及び今後のスケジュールについて
			・地区部会エリアにおける「具体的な取組み」の方針について
	第2回	平成27年11月25日(水)	・地区部会エリアにおける「具体的な取組み」の推進状況について
			・地区部会エリアにおける「具体的な取組み」の評価基準について
			・推進協議幹事会の設置について
	第3回	平成28年3月15日(火)	・地区部会エリアにおける年度評価について
			・中央区の課題解決に向けて
			・来年度の動きについて
平成28年度	第1回	平成28年7月19日(火)	・平成27年度推進状況について
			・重点取組項目の平成28年度目標について
			・各地域における取り組みの視察について

◆中央区内の地区部会エリア数 … 16

No.	地区部会名	活動対象区域
1	都地区部会	都町
2	末広地区部会	末広、長洲2丁目、長洲1丁目の一部、千葉寺町の一部、青葉町の一部
3	ちば中央地区部会	亥鼻、本町の一部、中央、市場町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、 亀岡町、葛城、東本町、長洲1丁目の一部、青葉町の一部
4	西千葉地区部会	登戸、新千葉の一部、汐見丘町、春日
5	中央地区部会	弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部
6	蘇我地区部会	蘇我、今井、若草、南町
7	白旗台地区部会	白旗、鵜の森町、今井町、大蔵寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、 千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部
8	松波地区部会	松波
9	松ヶ丘地区部会	松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、 宮崎町の一部
10	川戸地区部会	中央区：川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部 緑区：平山町の一部
11	寒川地区部会	港町、寒川町、稲荷町
12	星久喜地区部会	矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部
13	生浜地区部会	村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町
14	東千葉地区部会	東千葉
15	新宿地区部会	新宿、神明町、新田町、出洲港、中央港、千葉港、問屋町
16	中央東地区部会	祐光、椿森、道場北、院内、要町、本町の一部

◆中央区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年7月28日(火)	・本協議会における推進体制及び今後のスケジュールについて
			・地区部会エリアにおける「具体的な取組み」の方針について
	第2回	平成27年11月25日(水)	・地区部会エリアにおける「具体的な取組み」の推進状況について
			・地区部会エリアにおける「具体的な取組み」の評価基準について
			・推進協幹事会の設置について
	第3回	平成28年3月15日(火)	・地区部会エリアにおける年度評価について
			・中央区の課題解決に向けて
			・来年度の動きについて
平成28年度	第1回	平成28年7月19日(火)	・平成27年度推進状況について
			・重点取組項目の平成28年度目標について
			・各地域における取り組みの視察について

◆中央区内の地区部会エリア数 … 16

No.	地区部会名	活動対象区域
1	都地区部会	都町
2	末広地区部会	末広、長洲2丁目、長洲1丁目の一部、千葉寺町の一部、青葉町の一部
3	ちば中央地区部会	亥鼻、本町の一部、中央、市場町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、 亀岡町、葛城、東本町、長洲1丁目の一部、青葉町の一部
4	西千葉地区部会	登戸、新千葉の一部、汐見丘町、春日
5	中央地区部会	弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部
6	蘇我地区部会	蘇我、今井、若草、南町
7	白旗台地区部会	白旗、鶯の森町、今井町、大巖寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、 千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部
8	松波地区部会	松波
9	松ヶ丘地区部会	松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、 宮崎町の一部
10	川戸地区部会	中央区：川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部 緑区：平山町の一部
11	寒川地区部会	港町、寒川町、稲荷町
12	星久喜地区部会	矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部
13	生浜地区部会	村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町
14	東千葉地区部会	東千葉
15	新宿地区部会	新宿、神明町、新田町、出洲港、中央港、千葉港、問屋町
16	中央東地区部会	祐光、椿森、道場北、院内、要町、本町の一部

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題						
都地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	各町内自治会と協議を続け、ひとり暮らし高齢者が安心して地域で暮らせるよう、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。 見守り体制が整うまでは、防犯パトロールにより、地域の見守りを行う。	10町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、月1回、声かけによる見守りを実施している。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動は行っている。 地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対し、見守り活動への理解を求めたが、見守り活動を実施する町内自治会の増加には至らなかった。	B	担い手が不足している。						
【人口・世帯数】 9, 150人、4, 488世帯				⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実			1	地区部会が、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図るため、月1回、いきいきサロンを実施する。	A			
【町内自治会数】 10町内自治会								⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月1回、子育てサロンを実施する。	A	
【高齢化率】 23. 5%												
【地域の特徴】 〇都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曽利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。												
末広地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動の体制づくりについて検討する。	地区部会や4町内自治会の役員会等で、災害時要支援者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動が実施できるよう協議した。 1町内自治会では、見守り協力員を募り、見守り希望者と協力員の調整を進めている。	B	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代の確保が必要である。						
【人口・世帯数】 12, 204人、6, 171世帯												
【町内自治会数】 4町内自治会												
【高齢化率】 20. 4%												
【地域の特徴】 〇長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。 また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉も森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近は、末広街道・大網街道とも交通量の増加している。												
ちば中央地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。	第3地区町内自治会連絡協議会が、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練を内容とした、防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。	B	町内自治会との連携を深める必要がある。						
【人口・世帯数】 15, 633人、8, 515世帯							⑤ すべての子どもを地域で育てる	6	青少年育成委員会が中心となり、子ども達の安全を守るため、学校と地域が連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。 また、PTAが中心となり、「こども110番のいえ」に取組んでいる。	A		
【町内自治会数】 27町内自治会												
【高齢化率】 25. 0%												
【地域の特徴】 〇中央、市場町、長洲の一部、本町の一部、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。	⑮ 障がい者施設でのボランティア体験の推進	8	地区部会が、地域の障害者施設でボランティア活動を行い、障がい者との交流を図る。	地区部会のボランティア委員会が、年10回、亥鼻福祉作業所を訪問し、パンフレット封入れ、カレンダー巻、郵便物のシール貼り等の軽作業を手伝い、交流を図った。 また、敬老会の際、亥鼻福祉作業所の売店を設け、障がい者の地域交流に取り組んだ。	A							
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。	敬老会の際、小学校、中学校、高校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。	A							

【取組みテーマ】			【達成状況の目安】					
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実			S:目標を上回った。					
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み			A:概ね目標を達成した。(8～10割)					
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進			B:一部目標を達成した。(5～7割)					
			C:大きく目標を下回った。(～4割)					
地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題		
西千葉地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。	A	地域との関わりを持ちたがらない方や防災意識のない方に、どのようにしたら訓練に参加していただけるのか。 企業・学校の寮の住民が参加していただけるようにならないか。		
【人口・世帯数】 12, 393人、6, 400世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18. 8% 【地域の特徴】 ○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。			④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7			災害時に備えて、平常時から迅速な避難が出来るよう、地域の福祉マップを作成する。 また、避難所運営委員会が、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受入れが出来るよう、訓練を実施する。	民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制をとっている。 また、地区部会内の避難所(登戸小学校)で訓練を年1回実施した。
			⑪ 防災体制の充実				7	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。
中央地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、各町内自治会と協議を続け、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。	7町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、目配りによる見守りを実施している。 地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対し、見守り活動への理解を求めたが、見守り活動を実施する町内自治会の増加には至らなかった。	B	町内自治会との連携が困難。 (住宅地エリアと繁華街エリアの連携が難しい)		
【人口・世帯数】 6, 370人、3, 703世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 20. 5% 【地域の特徴】 ○弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。			⑤ すべての子どもを地域で育てる	6			子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちがこわい目に遭った時に安心して駆け込めるよう「子ども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。	地区部会が、弁天小学校の1・2年生の希望者66人を対象に、3日間に分けて地区部会、子供会、PTA、青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ40人)が引率して通学路付近の「子ども110番のいえ」22軒を訪問・挨拶し、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。
			⑨ 子育てサロンの充実				1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月1回、子育てサロンを実施する。
			⑫ 防犯対策の推進	6			地区部会が、子ども達の安全を守るため、地区部会が、登下校時に「こどもみまもりたい」パトロールを実施する。 また、児童向けの安全教室を年1回実施する。	地区部会のボランティア委員会が、弁天小学校の1～2年生を対象に、通学路で、毎朝の登校時と毎週金曜日の下校時、学校と自宅の送り迎えを実施した。 「児童向けの安全教室」は、弁天小学校の1～4年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方を訓練した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題					
蘇我地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会とあんしんケアセンター蘇我が共同し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。 また、コミュニティ懇談会(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行った。	A	備品や資料等を保管できる場所が必要である。					
【人口・世帯数】 17, 923人、8, 892世帯											
【町内自治会数】 8町内自治会											
【高齢化率】 16. 0%											
【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。											
③ 見守り体制をつくる	5	地区部会では、配布している「冷蔵庫保管用安心カード」について、地域の各種団体・機関とネットワーク化を図り、町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者への配布について検討する。	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会に加入している全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」を、町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者への配布について、8町内自治会や民児協と協議した。 地区部会の常任理事会、次年度の総会の承認を得て、配布する予定である。	A							
			④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援		4 7	災害発生時に備え、避難所ごとの「避難所運営委員会」が迅速に立ち上がるよう、年1回防災訓練を実施するとともに、避難所ごとの設備・備品の点検を行う。	地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 また、千葉工業高校と5町会が共同し、地域住民や生徒を対象に、消火器、炊き出し、AED等の防災訓練を実施した。				
								⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあい・散歩クラブ」等を定期的に実施し、高齢者の交流を図ります。	地区部会が、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として、「ふれあい・散歩クラブ」を年3回、「ふれあい・いきいきサロン」を年9回実施した。特に「ふれあい・いきいきサロン」では、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター蘇我の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持に努めた。 また、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動にも、地区部会として協力した。
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	地域で活動している各種団体が参加しているコミュニティづくり懇談会が十分機能しており、昨年度は地域の福祉ニーズが最も多かった災害時の安否確認・避難支援・避難所の運営訓練を行った。本年は昨年手が届かなかった「福祉的配慮を必要とする人をケアする避難システム作り」に取組む。 地域運営委員会については、コミュニティづくり懇談会が、そのまま移行することとし、本年は移行のための準備と、そのトライアルとして上記課題に取組む。	7か所すべての避難所で、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を盛り込んだ避難所運営マニュアルに改定することができた。 地域運営委員会については、予定どおりに準備が進み、来年度から、そのまま移行することが可能となった。	A	町内自治会長の交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりが必要である。 避難所による差が拡大しつつあるので、差を縮める必要がある。					
③ 見守り体制をつくる				5			昨年までに一応完了した各町内自治会ごとの見守り体制について、継続・充実を図るとともに、町内自治会長等の交替により後退してしまった町内自治会に対して働きかけを強め、再構築を図る。	各町内自治会から現状とその後の見通しについて報告をしてもらい、その内容について情報交換会を開いたり、広報誌に掲載してレベルアップを図った。後退してしまった町内自治会についても、ほぼ元のレベルに戻すことは出来た。 また、毎年、見直しや周知を実施する活動が定着した町内自治会も増えてきた。			
								④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	平成27年度は、地区部会の7か所の避難所のすべてで、「災害時の安否確認」、「避難支援」、「避難所立ち上げ・運営」訓練に加えて、「福祉的配慮を必要とする人をケアする避難システム作り」に取組み、その趣旨を入れたものに避難所運営マニュアルを改訂する。	7か所すべての避難所で訓練を実施し、高齢者や障がい者、病人等の受け入れ訓練も実施できた。 また、7か所すべての避難所で、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を盛り込んだ避難所運営マニュアルに改定することができた。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
白旗台地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの 充実	1	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」を定期的 to 実施し、高齢者の交流を図る。	地区部会が、高齢者を対象に、いきいきサロンを15会場で年間約150回実施しており、うち、5会場で月1回以上開催している。サロンの内容については、交流の場の提供だけでなく、市の「出前講座」を取り入れ、ソフト面の充実も図っているところもある。	A	
	⑦ 地域での健康づくり支援の充 実	2	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあい・散歩クラブ」を定期的 to 実施し、高齢者の交流を図るとともに、「ふれあい・いきいきサロン」において、定期的に介護予防や転倒防止運動を実施し、高齢者の健康増進を図る。	地区部会が、高齢者を対象に、月1回以上の散歩クラブを5か所で年間約100回実施した。 また、いきいきサロンにおいて、中央区健康課の保健師やあんしんケアセンター職員による講話や体操を取り入れ、高齢者の健康増進を図った。 地域の町内自治会の範囲で、将来の介護予防や健康づくりの推進を目的とする健康づくりサークルが出来てきた。	A	
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び 文化活動の推進	8	地域の子どもたちに、スポーツや地域の歴史、文化を学ぶ機会を与え、子どもたちの健全育成を図る。	地区内の3小学校で「放課後子ども教室」を実施し、地域住民がボランティアとして協力している。 青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 3小学校で、市民体育祭を実施し、その中で子どもの参加できる競技や、大人と一緒に参加する競技を設け、健全育成と共に近所の大人と知り合いになれた。 他にも、小学生球技大会(キックベース)、中学生球技大会(卓球)、中学生バトミントン大会等を実施した。	A	
	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月4回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、2会場で、月2回、親子とスタッフの交流、保健師による育児相談、読み聞かせ、食生活改善推進員からの話等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりを図った。 新規利用者にはアンケートを実施し、内容の改善に活用している。	A	
	⑭ 地域で福祉に関する講座や 研修会等の受講機会の提供	8 9	地区部会では、ボランティア講座を開催し、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解と参加の促進を図る。	地区部会の6委員会が、地域住民、地区部会役員を対象に、既に活動している方の資質向上や、新たな担い手の発掘のための講座を、各委員会で企画、計7回開催し、地域住民の福祉力の向上に取り組んだ。	A	
	⑳ 防犯対策の推進	6	町内自治会では、防犯対策を推進するため、防犯パトロール隊を結成し、週1回以上のパトロールを実施するとともに、防犯教室や安全講習会を開催する。	育成委員会が、青色回転灯装着車によるパトロールを月曜日～金曜日の下校時に実施した。 また、第9地区連協49町内自治会のうち41町内自治会が、防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 防犯教室は、各町内自治会で地域住民を対象に実施した。	A	
	㉑ 防災体制の充実	7	町内自治会では、防災会を設立し、年1回以上防災訓練を実施して、地域の防災体制の充実を図る。	第9地区町内自治会連絡協議会の49町内自治会中、45町内自治会で防災会が設立されおり、各防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回以上行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
松波地区部会エリア	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、お絵かき、季節のイベント(七夕、クリスマス)、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
【人口・世帯数】 4, 480人、2, 441世帯						
【町内自治会数】 1町内自治会						
【高齢化率】 25. 5%						
【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。 大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	⑰ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	3	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年12回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告のため、A3版の社協だより「ゆめ」を年1回発行するとともに、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、A4版の社協だよりを、年11回発行した。	A	担い手の確保
松ヶ丘地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	4	地区の各種団体が、地区の課題や情報を共有し、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的に住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営を進めるため、「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」を設立する。	平成27年5月、地域の39団体が参加し、「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」が設立された。 本委員会に5つの部会(円卓会議、地域問題検討部会、広報部会、ふるさとまつり部会、ひだまり運営部会)を設け、地域住民の交流の場である「ひだまり」の運営、ホームページによる地域行事等の情報発信、ふるさとまつりの開催など、諸事業に取り組んだ。 また、円卓会議を月1回開催し、構成団体が、地区の課題や情報を共有し、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的な住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営に取り組んだ。	A	
【人口・世帯数】 11, 841人、5, 521世帯						
【町内自治会数】 35町内自治会						
【高齢化率】 28. 1%						
【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年では過去においては川鉄及びその関連会社が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	② ボランティア活動の仕組みづくり	9	ひとり暮らし高齢者支援事業として、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続して実施する。	地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等、61件お手伝いし、ひとり暮らし高齢者の生活の一部を支援した。	A	地域の団体が「顔の見える」関係を構築するため、会議等の頻度が多いことが重要。 また、そうした会議を行える活動場所が重要。
	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を開始する。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、約50世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。	A	
	⑪ 世代間交流の場の提供	1	高齢者、障がい者、児童、赤ちゃん連れの母親など、誰もが、朝から夕方まで気軽に出入りできる交流の場を設け、世代間交流を図る。	「ひだまり運営委員会」を設置し、月曜日から土曜日の間、役員が当番制で常駐し、誰もがいつでも立ち寄れる地域住民の交流の場を提供した。 高齢者の交流を中心に、小、中学生の自習や友人との交流の場として利用されている。 また、地域の各種団体の会議や親睦の場としても使用されており、他地区からの見学も増えている。	A	
	⑰ 中学校区相談・情報センター機能の充実	3	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、情報発信に努めるとともに、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集やPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A	

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
川戸地区部会エリア	② ボランティア活動の仕組みづくり	9	高齢者や障がいのある方の支援事業として、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を開始する。	平成27年4月から、地区部会が、高齢者や障がいのある方を対象に、簡易な草刈り、草むしり、簡易な大工仕事、家具の移動、電球交換、話し相手等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を開始した。60件お手伝いし、高齢者や障がいのある方の生活の一部を支援した。	A	活動拠点や活動経費の確保。 担い手不足で役員に負担がかかっている。
【人口・世帯数】 6, 969人、3, 182世帯				地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方(23世帯)を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう見守り活動に取り組んだ。		
【町内自治会数】 13町内自治会				児童・生徒にボランティア体験の機会を通じて、地域への関心を高めてもらうため、小中学校の協力を得て、敬老会や地区運動会でのボランティア活動を通じ、福祉の心を育む機会を設けた。		
【高齢化率】 31. 3%	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、地域の各種団体等とのネットワークを強化し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	第21地区町内自治会連絡協議会が実施した、避難所への避難訓練に児童・生徒が参加し、避難経路を確認しながら、地域環境を知ってもらう機会を設けた。	A	地区部会の基盤となる町内自治会の担い手が不足している。 活動の担い手が高齢化している。(若い人が出てこない)
【地域の特徴】 ○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。	⑬ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会活動をはじめ地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。	地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、「災害時要支援者及び支援者名簿」を作成して、避難支援体制を構築し、6町内自治会の内、5町内自治会で避難訓練を実施した。	B	
	⑭ 地域環境を学ぶ	8	児童・生徒に、自分たちの住んでいるまちについて、知ってもらう機会を設ける。	地区部会が、寒川小学校5年生を対象に、車椅子体験講座を年1回開催した(80人の児童が参加)。また、敬老会に寒川小学校・末広中学校の吹奏楽部(約110人)が参加し、合同で演奏する機会を設け、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けた。	A	
寒川地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、災害時要支援者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。	A	町内自治会長が毎年替わるところがあり、引き継ぎが難しい。 また、町内自治会長の交流が薄くなってきていると感じる。連携して事業運営するために交流の場や機会が必要である。
【人口・世帯数】 5, 402人、2, 824世帯	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	4 7	地区部会が、災害時に避難支援を必要とする方に対する支援者を募り、災害時要支援者の避難支援体制の構築に努める。	6町内自治会の内、5町内自治会で防災訓練や防災講座を実施した。	B	
【町内自治会数】 6町内自治会	⑱ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会活動が、児童・生徒にボランティアとして参加できる機会を設ける。	地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、あんしんケアセンターからの話等を内容とした、いきいきサロンを年8回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A	
【高齢化率】 23. 5%	㉑ 防災体制の充実	7	町内自治会が、年1回、防災訓練や防災講座を実施して、地域の防災体制の充実を図る。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、保健師さんとのお話し会、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
【地域の特徴】 ○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の中間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、あんしんケアセンター松ヶ丘の協力により、年1回、認知症予防体操等を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けた。 また、小学校のお祭りにおいて、地区部会が設置した車椅子体験コーナーや、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	A	
星久喜地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	1	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、保健師さんとのお話し会、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	
【人口・世帯数】 11, 734人、5, 494世帯	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	8 9	
【町内自治会数】 24町内自治会	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	8 9	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。			
【高齢化率】 25. 5%						
【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。						

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題			
生浜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・ 推進	4	平成27年4月に発足する「生浜地区地域運営委員会」において、これまでの生浜地区における活動を引き継ぐとともに、地域運営委員会と地域の各団体との連携を強化していく。	「生浜地区地域運営委員会」の中に、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会を設け、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するための協議をした。 「青少年部会」では、生浜中学校の生徒にデザインしてもらった「こども110番のいえ」のステッカーを通学路の110番の家に貼った。 「高齢者・要支援者部会」では、災害時要支援者の支援方法について町内自治会や民生委員と協議した。 「防災部会」では、6か所の避難所での避難訓練の実現に向けて取り組んだ。	A	日常の近所付き合いをコーディネートする人が必要である。			
【人口・世帯数】 24, 827人、11, 257世帯									
【町内自治会数】 13町内自治会									
【高齢化率】 24. 5%									
【地域の特徴】 ○村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。 千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。									
③ 見守り体制をつくる				5			地区部会が、民生委員児童委員協議会や各町内自治会と協議し、見守り活動の仕組みづくりを検討する。	民生委員児童委員協議会で整理している「支援者名簿」を活用し、民生委員が支援者名簿に記載された方の身体状況や世帯状況等について聞き取り調査を行った結果、見守りを希望する方や見守りの必要性のある方は、それほど多くはなかったが、その方々に対する見守りの仕組みづくりについて、町内自治会と民生委員で話し合った。	A
④ 災害時に支援を必要とする人の 避難支援				4 7			災害発生時に備え、避難所ごとの「避難所運営委員会」が迅速に立ち上がるよう、年1回、避難所開設訓練を行う。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、避難所開設訓練及び避難訓練を行った。	A
⑤ すべての子どもを地域で育てる				6			地域の子ども達の安全確保のため見守り体制の確立を図るとともに、安心安全なまちづくりを目指すことを目的に、学校が主体となって行っているセーフティウォッチャー」に地域が協力する。 また、「こども110番のいえ」のステッカーを作成し、通学路の110番の家に貼る。	学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。 また、生浜中学校の生徒にデザインしてもらった「こども110番のいえ」のステッカーを作成し、通学路の110番の家に貼った。	A
⑮ 障がい者施設でのボランティア 体験の推進				8			地区部会が、中学生を対象とし、障がいについて学習する機会を設ける。	地区部会が、生浜中学校と協力し、1年生約200人を対象に、授業の一環として車椅子体験講習会を実施し、障がい者について学習する機会を設けた。	A
⑰ 福祉情報誌の充実と「中央区 ふくし・防災ガイド&マップ」の 活用	3	地区部会が、民生委員の協力を得て、作成した避難行動要支援者の地図の更新を検討する。	地区部会が、災害時要支援者の情報を町内自治会と共有するため、民生委員の協力を得て、避難行動要支援者のうち、同意を得た方を地図に落とし込む形で、平成26年度に作成したマップについて、要支援者の増減による更新を行った。	A					
⑳ 防犯対策の推進	6	地区部会が、交通安全意識の向上を図るため、警察等の協力を得て、交通安全教室を年1回実施する。	地区部会が、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。	A					
㉑ 防災体制の充実	7	町内自治会の防災会が、年1回以上防災訓練を実施して、地域の防災体制の充実を図る。	第13地区町内自治会連絡協議会の13町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されおり、その内、4つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。 なお、以前は、町内自治会ごとに防災訓練を実施していたが、現在は、避難所ごとの避難所開設訓練や避難訓練に重点を置いている。	A					

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
東千葉地区部会エリア	② ボランティア活動の仕組みづくり	9	高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「ちょっとボランティア」を継続するとともに、利用者の増加を図るため、利用しやすいよう仕組みの見直し・改善を検討する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、病院への付添い等(45件)お手伝いし、日常生活の一部支援に取り組んだ。 また、「ちょっとボランティア制度の見直し改善委員会」を設け、年4回にわたり検討を重ね、東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)との連携による受付窓口の拡充、利用案内のしおりの記載内容の見直し、利用券の廃止等、「ちょっとボランティア」の仕組みを見直した(平成28年度から新しい仕組みで運用を予定している)。	A	全町内自治会長が1年で交替するので、引き継ぎが難しい。せめて半数が残る仕組みが必要である。 いつでも利用でき、資機材の保管ができる地区部会の活動拠点が欲しい。空き物件を賃借できる助成金制度が必要である。 サロン等で使用する資機材の購入のための助成金が必要である。
【人口・世帯数】 4, 215人、1, 965世帯						
【町内自治会数】 6町内自治会						
【高齢化率】 34. 1%						
【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。						
新宿地区部会エリア	⑩ 中学校区相談・情報センター機能の充実	3	地域の方々の相談に対応するため、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが地域の方々の個別の相談に応じ、地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供する。	民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが地域の方々の個別の相談に応じ、隔月に実施する地区部会の役員会において各団体で情報共有を図った。個別で対応しきれない課題については、地区部会が行政等関係機関と連携して解決に向け取り組んでいる。	B	マンション等の集合住宅が急増し、新住民とのコミュニティを築く必要がある。 マンション管理組合理事長が1年で交替するので、活動の継続性を持たせる仕組みづくりの整備を図る必要がある。
【人口・世帯数】 21, 451人、10, 290世帯						
【町内自治会数】 13町内自治会						
【高齢化率】 13. 7%						
【地域の特徴】 ○新宿、神明町、新田町、出洲港、中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域があると同時に、市役所・県庁などを有する官庁街でもある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。						
中央東地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	5	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を開始する。	平成27年7月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者などの内、見守りを希望する方(116世帯)に対し、目配りや訪問による安否確認を開始し、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守りに取り組んだ。	A	子育てサロンの会場が狭いことから、広い会場の確保が必要である。 担い手不足 (若い人に積極的に参加して欲しい。)
【人口・世帯数】 13, 315人、7, 662世帯						
【町内自治会数】 16町内自治会						
【高齢化率】 25. 6%						
【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町、本町の一部を対象としたエリア。 千葉市都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。						
	⑨ 子育てサロンの充実	1	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語らい、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年6回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年6回、親子とスタッフの交流、保健師による子育て講座、紙芝居等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	事業継続のための資金確保 (立ち上げ経費だけではなく、事業維持のための継続した助成金制度が必要である。)

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

主 な 成 果	・地域住民への福祉情報の提供と交流・健康づくりの場として、各種講座を開催している地区が多く見受けられ、参加者も年々増加しており、地域に活動が根ざしてきつつある。
今 後 の 課 題	・活動を継続していく中で、新しい担い手をどのように見つけていくかが課題。 ・ボランティアが一方的に参加者にサービスを提供するのではなく、サービスの受け手が別の場ではサービスの担い手となるような、自助・共助の意識を根付かせていくことが必要。

◆取組みテーマ別達成状況				
【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 A:概ね目標を達成した。(8～10割) B:一部目標を達成した。(5～7割) C:大きく目標を下回った。(～4割)				
取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組事例	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	2	・認知症サポーター養成講座、詐欺被害を予防するための基礎講座、健康教室、子育て講習、防災講座などを実施。 ・安全・安心に暮らしていくために、必要な知識や相談場所などを情報提供することで、地域住民の問題意識を高め、普段からお互いに見守り、支え合う地域づくりを促進した。	S	0
			A	2
			B	0
			C	0
2 健康づくり	6	・要介護者の増加と介護の担い手不足の深刻化に伴い、介護予防の重要性が高まっており、身体 の健康維持・向上を目的とし、また人と人とのつながりができる場として、健康体操講座、地域参加支援事業などを開催。	S	1
			A	5
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	5	・認知症予防や介護予防、防災に関する講座の開催や、広報誌での記事の掲載により、地域に福祉情報を提供。 ・いきいきサロンにて、参加者が気軽に相談できるような雰囲気づくりを実施。 ・避難行動要支援者対策の仕組みづくりを目指し、要支援者名簿を取得していた地区もあった。	S	0
			A	3
			B	2
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	5	・ゴミだし、病院付き添い、家具の移動など、独居高齢者等の支援が必要な方に対して、助け合い活動を実施。	S	0
			A	3
			B	1
			C	1
5 見守り体制の構築	5	・既に見守り活動を実施している地区では、チラシや声かけによる広報活動を行い、新規利用者が増加した。 ・高齢者同士が触れ合うきっかけづくりとして、食事会やサロンなどを実施。	S	0
			A	3
			B	1
			C	1
6 防犯に対する取組み	1	・各自治会の一部に防犯パトロール隊を組織し、パトロールを実施。安心して生活できる地域づくりを促進した。	S	0
			A	0
			B	1
			C	0
7 防災に対する取組み	4	・各避難所の一部に避難所運営委員会、各自治会の一部に防災会を組織し、防災訓練を実施した。 ・防災に関する講座を実施し、地域住民の防災に関する意識の高揚に寄与した。	S	0
			A	2
			B	2
			C	0
8 福祉教育・啓発	—	—	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	—	—	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
合 計	28		S	1
			A	18
			B	7
			C	2

＜参考＞

◆花見川区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年7月10日(金)	・花見川区支え合いのまち推進計画の周知について
			・重点取組項目(地区部会エリア別)について
			・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
			・スケジュールについて
	第2回	平成27年11月13日(金)	・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
			・重点取組項目(地区部会エリア別)について
第3回	平成28年2月24日(月)	・地域包括ケアシステムについて	
		・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について	
平成28年度	第1回	平成28年7月1日(金)	・重点取組項目(地区部会エリア別)について
			・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
			・熊本地震派遣職員による現場報告
			・花見川区の高齢者の状況について
			・スケジュールについて

◆花見川区内の地区部会エリア数 … 13

No.	地区部会名	活動対象区域
1	検見川地区部会	検見川町、南花園2丁目の一部
2	花園地区部会	花園、花園町、浪花町、瑞穂、朝日ヶ丘4丁目、南花園1丁目、南花園2丁目の一部
3	犢橋地区部会	犢橋町、千種町、三角町
4	こてはし台中学校区地区部会	大日町、内山町、宇那谷町、横戸台、横戸町の一部
5	幕張・武石地区部会	武石町、幕張6丁目
6	花見川地区部会	柏井町、柏井、花島町、横戸町の一部、花見川6・7街区
7	花見川第2地区部会	天戸町の一部、花見川1～5街区、8・9街区
8	朝日ヶ丘地区部会	朝日ヶ丘1～3丁目、西小中台、宮野木台の一部
9	こてはし台地区部会	こてはし台
10	天戸中学校区地区部会	長作町、長作台、作新台、天戸町の一部
11	さつきが丘・宮野木台地区部会	さつきが丘、宮野木台の一部
12	幕張本郷中学校区地区部会	幕張本郷、幕張町1丁目の一部
13	畑地区部会	畑町、朝日ヶ丘5丁目

◆花見川区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年7月10日(金)	・花見川区支え合いのまち推進計画の周知について
			・重点取組項目(地区部会エリア別)について
			・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
			・スケジュールについて
	第2回	平成27年11月13日(金)	・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
			・重点取組項目(地区部会エリア別)について
平成28年度	第3回	平成28年2月24日(月)	・地域包括ケアシステムについて
			・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
	第1回	平成28年7月1日(金)	・重点取組項目(地区部会エリア別)について
			・花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況について
			・熊本地震派遣職員による現場報告
			・花見川区の高齢者の状況について
			・スケジュールについて

◆花見川区内の地区部会エリア数 … 13

No.	地区部会名	活動対象区域
1	検見川地区部会	検見川町、南花園2丁目の一部
2	花園地区部会	花園、花園町、浪花町、瑞穂、朝日ヶ丘4丁目、南花園1丁目、 南花園2丁目の一部
3	犢橋地区部会	犢橋町、千種町、三角町
4	こてはし台中学校区地区部会	大日町、内山町、宇那谷町、横戸台、横戸町の一部
5	幕張・武石地区部会	武石町、幕張6丁目
6	花見川地区部会	柏井町、柏井、花島町、横戸町の一部、花見川6・7街区
7	花見川第2地区部会	天戸町の一部、花見川1～5街区、8・9街区
8	朝日ヶ丘地区部会	朝日ヶ丘1～3丁目、西小中台、宮野木台の一部
9	こてはし台地区部会	こてはし台
10	天戸中学校区地区部会	長作町、長作台、作新台、天戸町の一部
11	さつきが丘・宮野木台地区部会	さつきが丘、宮野木台の一部
12	幕張本郷中学校区地区部会	幕張本郷、幕張町1丁目の一部
13	畑地区部会	畑町、朝日ヶ丘5丁目

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)	【取組みテーマ】			【達成状況の目安】		
	1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実			S: 目標を上回った。		
	4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み			A: 概ね目標を達成した。(8～10割)		
	7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進			B: 一部目標を達成した。(5～7割) C: 大きく目標を下回った。(～4割)		

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
検見川地区部会エリア	⑱ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます	7	防災意識を高めるための研修会の実施。2回実施を目標とする。	重点項目の防災に関しては、予定していた講演会・研修会は、ほぼ満席の状態を終了することができたが、町内での大きなイベントである神社の祭りがあったりで、その後の進展がなかなかできずにいる。こちらの働きかけで地区内(町内)の防災に関する会議が2月の後半にやっと持つことができる状態。	B	防災に関する意識が地域住民には、まだまだ浸透していない状態なので、もっと広報していく必要を感じている。また、2月に町会との話し合いで、どの程度前に進むかわかりませんが、大まかな組織の形だけは28年度中に決めていきたいと考える。そして、小さいお子さん、小学生、その保護者を対象に、防災意識を高めていただくために親子で受けていただく講演会を計画している。
【人口・世帯数】 11935人、5932世帯						
【町内自治会数】 5町内自治会						
【高齢化率】 20.2%						
【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町						
花園地区部会エリア	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	「向こう三軒両隣」の延長線上にある「日常的な見守り活動」の奨励と実施状況の把握に努める。H27年度は5自治会実施を目標とする。	個人的な見守りはあるが、自治会としての多くは「向こう三軒両隣」の範囲に止まっている。自治会の仕組みとすることには躊躇が見られる。もっと気軽な取り組みにすることが必要である。基本的には挨拶運動や自治会の行事への参加、地域活動への参加等によるコミュニティ活動を通して、日常的な付き合いの範囲を広げる必要がある。呼びかけも不足している。	B	7地区の中で、防犯パトロール時に希望するお宅に立ち寄って声掛けをしている自治会がある。このような事例を紹介していきたい。また、お祭りをはじめ地域の行事の大切さを呼びかけていきたい。
【人口・世帯数】 21228人、9392世帯						
【町内自治会数】 	⑮ 地域を支える様々な福祉活動、ボランティア活動などの情報や、福祉サービスに関する情報等を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	3	「避難行動要支援者名簿に関する条例に対応した仕組みづくり」を定着させるために、ネットワークを活用し、情報の把握・提供を行う。そのため既に実施している自治会を例に民児協、自治会と協力する。H27年度は5自治会実施を目標とする。	避難所運営委員会の開設(準備中を含む)に伴い、市提供の要支援者名簿の取得は、規模の大きい自治会で進んでいるが、これに基づく仕組みづくりは捗々しくない。	B	全体として担い手不足は否めないが、急な改善は見込めないとすれば、基本的には「日常的な向こう三軒両隣」が主になると考える。また、市から提供された情報に、機動的に対応する方法は考えなければならない。地区部会の対応としてはネットワークの構築と情報の提供が主になる。
18町内自治会	⑱ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます	7	「避難所運営委員会」当部会としては花園中・花園小・花園公民館・瑞穂小の4箇所を抱えることになる。H27年度は全地区にて避難所運営委員会立ち上げを目標とする。	・開設 1(花園小学校) ・今期中開設予定 3(花園中学校・花園公民館・瑞穂小) ・花園地区のすべての自治会が参加しており、目標はほぼ達成されている。	A	訓練の実施 第7地区町内自治会連絡協議会を通して定期的な訓練の呼びかけを行う。地区部会としてもこれに参加していく。
【高齢化率】 21.4%						
【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。						
朝日ヶ丘地区部会エリア	③ 地域住民が、安全・安心に気軽に活動できるよう、挨拶・声かけなど、親しみ、ふれあう環境づくりを推進します	1,2	現在、朝日ヶ丘公民館で「あんしんケアセンター花園」と「千葉市消費生活センター」から講師を招き、それぞれ年3回講演会を実施している。安全・安心に暮らすための情報を提供する講座を開催するなど、内容の充実を図りたい。	3/8現在で、あんしんケアセンターによる講座を2回、消費生活センターによる講座を3回開催済み。あんしんケアセンターの講座では、高齢化に伴い増加が見込まれる認知症について、正しい理解と対応を学ぶために認知症サポーター養成講座を実施した。消費生活センターの講座では、千葉県が消費者詐欺被害全国ワースト2であることをふまえて、詐欺被害を予防するための基礎講座を実施した。安全・安心に暮らしていくために必要な知識や相談場所などを情報提供することで、地域住民の問題意識を高め、普段からお互いに見守り支え合う地域づくりにつながっている。	A	地域の実情や参加者の希望を取り入れ、内容の更なる充実を図る。
13789人、6258世帯	⑤ 住民自ら健康への関心を高めるとともに、イベントや講習会、スポーツなど健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう	2	現在、年2回朝日ヶ丘中学校の体育館を借りて専門講師による「介護予防の健康体操」を実施している。参加者が多いので、全ての人が参加できるように講座の普及に努めたい。	11/18に介護予防の健康体操講座を開催し、約44名の参加があった。3/13にも開催予定。今年度から朝日ヶ丘つくし自治会館でも月2回いきいきサロン内で健康体操講座を開始した。参加者は平均40名ほどである。要介護者の増加と介護の担い手不足の深刻化に伴い、介護予防の重要性が高まってきている。身体の健康維持・向上だけでなく、人と人とのつながりができることで、参加者が年々増加しており、朝日ヶ丘つくし自治会館での体操講座の実施につながった。	A	講師と都合が合えば、開催回数を増やすことも検討したい。
12町内自治会	⑮ 地域を支える様々な福祉活動、ボランティア活動などの情報や、福祉サービスに関する情報等を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	3	広報誌「ふれあい」を年4回発行しているが、さらに内容の充実をしていきたい。また、年18回「交流広場ふれあい」を開催し、だれでも気軽に参加できるよう、さらに内容の充実を図る。	交流広場ふれあいは歌声喫茶を高齢者福祉委員会の事業として独立させたため、年間の回数は昨年度より減少した。しかし、防災対策学習会やクリスマスツリーづくりなど、今までにない内容を企画・実施し、参加者からは好評を得た。広報紙は既に3回発行済。地区部会の活動内容やこれからの予定に加えて、詐欺予防や認知症予防に関する内容の記事を盛り込み、地域の福祉情報を発信するメディアとしての役割を担っている。	A	地域の実情や参加者の希望を取り入れ、内容の更なる充実を図る。
31.2%						
【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	⑯ 地域行事やいきいきサロン等を利用して、住民相互が交流できる機会を増やしていくとともに、気軽に相談できる場の確保に努めます	3	各自治会が取り組んでいるサロン活動について、各自治会が月2回程度のサロン活動をすることにより地域見守り活動の一助としたい。	地区部会主催のサロンの他に、西小中台自治会にて年24回、宮野木台さつき自治会にて年4回、朝日ヶ丘つくし自治会にて年10回、計年38回いきいきサロンが各自治会にて開催されている。サロンの中で参加者に対してボランティアが声をかけをし、気軽に相談できるような雰囲気づくりを行っている。福祉サービスが多様化するなかで、抱えている問題をどうやって解決していくか、どこに相談していいかわからない住民に対して、身近な相談窓口としてサロンが機能している。また、独居高齢者や介護家族など、地域から孤立しがちな方たちを含め、幅広い年齢や状態の高齢者が参加することにより、高齢者同士の助け合いや相談の場にもなっている。	A	サロンを定期開催し、交流・相談ができる場があることを地域に広めていきたい。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
- S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
犢橋地区部会エリア	② 活動場所を確保するため、コミュニティセンター・公民館などの公の施設や自治会館・集会所、地域にある空き家、空き店舗、福祉施設などの既存の施設を有効利用した居場所づくりを推進します	1	犢橋地域福祉交流館におけるイベント事業の拡充及び利用率向上を目的とした利用団体数の増加並びに地区部会主催による子育て支援・高齢者の健康づくり講習等を実施し、世代を超えた様々な交流を促進し、地域住民の絆の醸成に努める。 前年度に対し、団体登録数・年間利用延人員を拡充し、イベント事業・講習会の実施を継続する。	(1)交流館利用の拡充については、概ね目標通り達成された。 (2)特に、講習会は目標の2回に対し5回(健康教室3回、子育て講習1回、防災講座1回)実施した。	A	(1)登録数及び利用人員については、周辺施設の閉鎖等があり、前年度より増加する見込みである。 (2)イベント事業及び講習会については、前年度同様、実施したい。 (3)なお、施設利用の限界対策として通年開館等何らかの措置を講じる必要がある。
【人口・世帯数】						
10717人、4969世帯						
【町内自治会数】						
15町内自治会						
【高齢化率】						
28.3%						
【地域の特徴】						
昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。						
こてはし台中学校区地区部会エリア	⑤ 住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツなど健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう	2	地域の高齢者の仲間づくりや健康増進が図れるよう、定期的なイベントや講習会を開催する。H27年度はイベントを1回開催予定。	地域全体に趣旨とイベントの開催の案内を自治会・町内会経由で回覧した。 10月4日に講師指導の下、健康体操と食事会を行う。 参加者100人、2時間行う。盛り上がったと思う。	A	引き続き健康体操主体のイベントを開催予定。 ノルディックウォーキングの会も計画したい。
【人口・世帯数】						
9724人、4003世帯						
【町内自治会数】						
10町内自治会						
【高齢化率】						
25.1%						
【地域の特徴】						
新興住宅地と旧農村						
幕張・武石地区部会エリア	⑯ 地域行事やいきいきサロン等を利用して、住民相互が交流できる機会を増やしていくとともに、気軽に相談できる場の確保に努めます	3	年間19回実施している「ふれあい・いきいきサロン」で、レクリエーション的項目に研修的項目を加え、内容の充実を図る。H27年度は19回開催予定。	「いきいきサロン」の内容を充実させ、参加者の心の豊かさと健康保持に寄与することができた。特にあんしんケアセンターや保健福祉センターの職員に依頼し、認知症予防講座や介護予防講座を実施し、内容の充実を図ることができた。	A	28年度も「いきいきサロン」を充実させ、高齢者に必要な情報の提供と参加者の増加を図っていく。
【人口・世帯数】						
4303人、2173世帯						
【町内自治会数】						
4町内自治会						
【高齢化率】						
27.7%						
【地域の特徴】						
旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。						
花見川地区部会エリア	⑦ 地域参加支援事業など介護予防活動の普及に努めます	2	地域参加支援事業の出席者数を平成25年度比例1.1倍とする。	H27年度も全体として増加しているが、クラブによっては減少しているところも見受けられるので、その原因を調査する必要がある。 また、会場の収容能力が不足しているので、開催回数でカバーする必要がある。	S	できるだけ毎回高齢者向けの課題 ([例]振り込め詐欺、認知症、マイナンバー制度等)についての講座を入れるようにしたい。
【人口・世帯数】						
11403人、5397世帯						
【町内自治会数】						
18町内自治会						
【高齢化率】						
38.0%						
【地域の特徴】						
戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。						

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
B: 一部目標を達成した。(5~7割)
C: 大きく目標を下回った。(~4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題		
花見川第2地区部会エリア	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	これまでの、見守り体制を浸透させるとともに、家にこもりがちな高齢者に外に出る機会を提供し、お互いが助け合える関係づくりの構築を目指す。 ・見守り体制の浸透(ボランティアの充実と、研修等の実施) ・高齢者同士の仲間づくりの推進(講座、イベントの実施)	郵便物や配付物、洗濯物の確認など外からの見守りを継続して実施した。見守り対象者からも「安心して暮らせる」など感謝の言葉を頂いている。 また、ふれあい喫茶や食事会、社協まつりを開催し、高齢者が地域に出て様々な年代と関わり交流する機会を作った。また高齢者の健康増進と仲間づくりのため、健康体操講座やグラウンドゴルフ交流会も開催した。	A	見守り活動と高齢者向けのイベントを継続し、高齢者を外から見守るだけでなく、イベントを通じて高齢者の仲間づくりを促進し、孤立しない地域を作っていきたい。		
【人口・世帯数】								
12197人、6273世帯								
【町内自治会数】								
7町内自治会								
【高齢化率】								
36.9%								
【地域の特徴】								
花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。								
こてはし台地区部会エリア	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	「見守り・声かけ事業の推進」 ・利用者の募集促進 ・コーディネーター連絡会の充実	・広報活動が課題ととらえて、社協ニュース(広報紙)への募集案内を掲載。また、民生委員の健康調査活動時に声かけを依頼した結果、8名の利用者希望があり、成果を得た。 ・月1回のコーディネーター会議を開き、問題点の抽出、検討を行った。	A	・引き続き、広報活動を活発に行い、利用者及び協力員の募集を行っていく。 ・情報交換を活発にし、事業のスムーズな運営を図る。		
【人口・世帯数】								
6317人、2841世帯	⑮ 地域を支える様々な福祉活動、ボランティア活動などの情報や、福祉サービスに関する情報等を共有し、わかりやすい情報として、発信・受信するための仕組みづくりに努めます	3	「ホームページ作成の企画・立案」 ・企画、提案 ・具体的内容検討 ・運営委員会の設立	・今年度は具体的内容の検討、運営委員会の設立を目指したがやや遅れている。具体的には28年3月までに明らかとし、28年度に実施をしたい。	B	・ホームページの立ち上げ、運営委員会の設置を目指す。		
【町内自治会数】								
1町内自治会	⑮ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます	7	「避難所運営委員会の設立と推進」 ①運用マニュアル作成 ②訓練実施	第1回の訓練を実施(H27.8.31)。避難所2ヶ所だが、1ヶ所のみで行った。初めての訓練としては、まずまずであったが、参加者(140名)のアンケートを実施。結果によって、課題も多くあった。次年度に生かしたい。	B	・細部にわたっての運営マニュアル作成が必至。合せて、第2回目の訓練を実施する。		
【高齢化率】								
47.9%								
【地域の特徴】								
昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。								
天戸中学校区地区部会エリア	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	個人として地域活動・福祉活動に理解・協力の得られる方々の掘り起しに力点を移し、見守り・助け合い活動のネットワーク化を進めたい。 H27年度は協力者のいる町内自治会を10%まで増やしたい。	地区部会を構成している各町内自治会単位の活動で、連携して地区全体で推進を目指したが人材不足と力量不足で進展なし。	C	福祉活動推進員、民生委員の個々の熱意を得て、地域住民の中から新たな協力者の掘り起しを模索したい。		
【人口・世帯数】								
19006人、8175世帯								
【町内自治会数】								
17町内自治会								
【高齢化率】								
30.6%								
【地域の特徴】								
農村地域と新興住宅地域。								

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題		
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア	⑧ 地域での助け合いを進めるため、相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティアの充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます	4,5	「ご近所助け合い」事業の中で、コーディネーター及びボランティアが依頼者の様子を見て、異常があるようだったら民生委員・警察・消防・福祉事務所に届けるか、役員で話し合い判断し、高齢者の見守り活動を拡充していきたい。今後は他団体との情報交換をして、町内自治会長、民生委員などと連携していきたい。気軽に便利に、支援を受けやすいように、システムを改善したい。	・ゴミ出しを中心として、200件以上の依頼をボランティアが対応し、「ご近所助け合い」活動も定着しつつある。ゴミ出しの他には、病院付き添い、家具の移動、室内掃除、シャンプーの依頼があり、全て対応できた。 ・システム改善について、役員会で検討中。	A	・現在の「ご近所助け合い」活動の充実と、見守り・支え合いとの結びつきを目指す。 ・システム改善について更に検討を重ね、具体的な構想を固める。		
【人口・世帯数】								
12967人、6061世帯								
【町内自治会数】								
15町内自治会								
【高齢化率】								
31.6%								
【地域の特徴】								
古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。								
幕張本郷中学校区地区部会エリア	⑤ 住民自ら健康への関心を深めるとともに、イベントや講習会、スポーツなど健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう	2	現在、幕張本郷公民館で、地域高齢者の仲間づくりや交流の場となる「健康セミナー」等のボランティア講習会を年1回開催しているが、これを今後3年間も維持、継続していけるように工夫・努力していく。	計画通り、6/26に健康セミナー「チャレンジ運動講習会」を実施。32名の参加があった。 財源が限られているなかで、役員が工夫して開催している。	A	役員全員が自治会関係役員と併任。高齢化もあり目下冬眠中。H27年3月に入ったら活動再開予定。 企画・運営を担う役員も高齢であるため、負担の少ない形で継続していきたい。		
【人口・世帯数】								
24505人、11688世帯	⑥ 高齢者向けのスポーツの推進やサークル活動への参加促進に努めます	2	現在、一本松公園や幕張台公園で、地域高齢者の仲間づくりや交流の場となるふれあいグラウンドゴルフ大会を実施している。線路を境に北側の公園と南側の公園を会場に実施しているが、北側住民の方々の参加が低調で、実施が危ぶまれる事態もある。 検討・工夫を加え、年1回の実施を維持継続していく。	計画通り、4/25に地区部会主催でグラウンドゴルフ大会を実施。今年度は線路から北側の公園で開催し、40人の参加があった。 賞品を用意することで参加を促進している。	A	役員全員が自治会関係役員と併任。高齢化もあり目下冬眠中。H27年3月に入ったら活動再開予定。 28年度は線路から南側の公園で実施予定。 南側は新住民が多く、参加が低調である。賞品に頼らずに参加を呼び掛ける方法も検討したい。		
【町内自治会数】								
4町内自治会								
【高齢化率】								
12.2%								
【地域の特徴】								
JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。								
畑地区部会エリア	⑪ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます	6	全町内自治会それぞれにパトロール隊を組織し、防犯パトロールを実施する。H27年度は1町内自治会での組織・実施を目標とする。	4つの自治会でパトロールを行っている。 自治会役員が中心になりパトロールを実施しているところが多く、パトロール隊を別に組織しなくてもいいのかなと考えている。	B	引き続きパトロールを実施。組織作りを推進する。		
【人口・世帯数】								
6332人、2740世帯	⑫ 日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます	7	全町内自治会それぞれに防災会を組織する。H27年度は5町内自治会での組織を目標とする。	すべての自治会で防災会を組織されつつある。 防災訓練はすべての自治会で定期的に行われている。 引き続き行ってほしい。	A	残り1自治会の防災会の立ち上げに向けてサポートしていく。		
【町内自治会数】								
6町内自治会								
【高齢化率】								
31.1%								
【地域の特徴】								
古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。								

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

主 な 成 果	・あいさつ運動を通じて、地域の中で大人から子どもまでが、お互いに積極的にあいさつを交わす意識が浸透したとの声を得ることができた。 ・地区部会や町内自治会などが連携協力し、幅広い世代が参加交流できるイベントや、いきいきサロン等高齢者の居場所づくりの拡充を図るなど、参加者からも、外出するきっかけになったとの声を得ることができた。 ・健康づくりの啓発普及を図るために、地区部会が新たに事業(講座)を企画。エリア内3箇所に分散して、実施するなど工夫し、出来るだけ多くの方に啓発する機会を提供することができた。
今 後 の 課 題	・新たな担い手の育成、確保を図っていく必要性がある。 ・各種団体間で地域活動の理解を深め、既存の活動が継続的に維持できるよう相互の連携協力を図っていく必要がある。 ・地域内における高齢者の増加に伴い、居場所づくりの拡充を図る必要がある。

◆取組みテーマ別達成状況				【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 A:概ね目標を達成した。(8～10割)		B:一部目標を達成した。(5～7割) C:大きく目標を下回った。(～4割)	
取組みテーマ	重点取組 項目数	主な取組み実績		達成 状況			
1 交流の機会創出と 社会参加の促進	20	・青少年育成委員会が、近隣3校に、「挨拶」をテーマに標語を募集し、優秀作品4点を各学校で表彰、また地区部会等の広報紙や町内自治会掲示板にポスターを掲示するなど、あいさつ運動の浸透に取り組んだ。 ・地区部会が、若い世代をはじめ異世代交流が図れるイベントを新たに企画実施し、広報紙や口コミなどの周知により、幅広い世代の参加促進に取り組んだ。		S	0		
				A	20		
				B	0		
				C	0		
2 健康づくり	14	・地区部会が、区健康課や民生委員と連携し、高齢者向けに「健康づくり講座」を年3回(参加総数123人)実施し、健康づくりに関する情報提供に取り組んだ。 ・地区部会が、町内自治会や民生委員、福祉施設等と連携協力し、いきいきサロンを(20ヶ所 252回 延べ3187人)等の拡充を図り、介護予防の普及に取り組んだ。		S	0		
				A	14		
				B	0		
				C	0		
3 相談体制と情報提供 の充実	5	・地区部会をはじめ、町内自治会や民児協、青少年育成委員会など、各種団体が、相互に会議やイベント等に参加し、活動情報等を共有し、地区部会だよりなどの広報紙を通じて、地域活動の情報発信に努めた。		S	0		
				A	5		
				B	0		
				C	0		
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	12	・地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会等の団体が、地域のイベント活動を実施する際、相互に連携協力し、地域活動に取り組んだ。 ・地区部会が、民児協や町内自治会等と連携協力し、地域住民に対して、地域活動についての関心や理解、協力を得れるよう、企画内容を工夫して手話講座(年1回 22人)などに取り組んだ。		S	0		
				A	12		
				B	0		
				C	0		
5 見守り体制の構築	5	・実施エリアの拡大には至らなかったが、3地区部会のエリア内の17町内自治会において、一人暮らし高齢者等に対して定期的な訪問や声かけなどによる安否確認などの見守り支援を継続的に取り組んだ。 ・1地区部会が、高齢者等に対して閉じこもり予防のために、いきいきサロンを新たに実施し、住民同士の見守りの機会の拡充に取り組んだ。		S	0		
				A	4		
				B	1		
				C	0		
6 防犯に対する取組み	11	・2地区部会のエリアにおける青少年育成委員会が、地域住民や商店等に対して「こども110番のいえ」の協力者の確保に努めた。 ・学校セーフティウォッチャーの拡充に努め、児童生徒の見守りに取り組んだ。		S	0		
				A	11		
				B	0		
				C	0		
7 防災に対する取組み	4	・公民館と地区部会が共催で防災講座(年1回 56人)を開催し、地域住民に対して災害時における危機意識の向上に取り組んだ。 ・4地区部会のエリア内における24町内自治会自主防災などが、千葉市消防署と連携協力し、地域住民に対して防災訓練等を実施し、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。		S	0		
				A	4		
				B	0		
				C	0		
8 福祉教育・啓発	—	—		S	0		
				A	0		
				B	0		
				C	0		
9 人材確保とボランティア活動の促進	3	・各種団体が担い手の参加協力を得られるよう、相互の活動に参加し、顔なじみの関係づくりに努めた。また地区部会が福祉講座を地域住民に対して企画実施し、人材の確保につながった。 ・地区部会が、地域福祉活動の推進に役立つ情報等を得るために、市社協主催の研修(年4回)に福祉活動推進員を派遣するなど、人材の育成に努めた。		S	0		
				A	2		
				B	1		
				C	0		
合 計	74			S	0		
				A	72		
				B	2		
				C	0		

<参考>

◆稲毛区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年7月28日(火)	・稲毛区支え合いのまち推進協議会設置要綱の改正について
			・今年度の取組みについて
			・各地区部会エリアにおける平成27年度重点項目の取組みについて
	第2回	平成27年11月27日(金)	・稲毛区支え合いのまち推進計画の進捗状況について
			・支え合いのまち稲毛(区推進協だより)の発行について
			・地域包括ケアの推進について
第3回	平成28年3月17日(木)	・稲毛区支え合いのまち推進計画の平成27年度進捗状況について	
		・支え合いのまち稲毛(区推進協だより)の発行について	
平成28年度	第1回	平成28年7月13日(水)	・平成27年度稲毛区推進計画の推進状況について
			・稲毛区推進計画の平成28年度の取組みについて
			・健康づくり事業について

◆稲毛区内の地区部会エリア数 … 12

No.	地区部会名	活動対象区域
1	小中台東地区部会	小中台町、園生町の一部、宮野木町の一部
2	山王地区部会	山王町、小深町、六方町、長沼原町の一部
3	轟・穴川地区部会	轟町、穴川、穴川町
4	稲毛地区部会	稲毛、稲毛町、稲毛東5～6丁目
5	稲丘地区部会	稲丘町、稲毛台町、稲毛東1～4丁目、稲毛1丁目の一部、黒砂4丁目の一部、小仲台1丁目の一部
6	千草台中学校地区部会	千草台、萩台町、天台町、天台2～6丁目
7	草野地区部会	あやめ台の一部、園生町の一部、長沼町の一部、長沼原町の一部
8	緑が丘地区部会	柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部
9	301(作草部・天台)地区部会	作草部、作草部町、天台1丁目
10	緑・黒砂地区部会	緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目
11	小中台西地区部会	小仲台1丁目の一部～9丁目
12	弥生地区部会	弥生町、黒砂台3丁目の一部

◆稲毛区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年7月28日(火)	・稲毛区支え合いのまち推進協議会設置要綱の改正について
			・今年度の取組みについて
			・各地区部会エリアにおける平成27年度重点項目の取組みについて
	第2回	平成27年11月27日(金)	・稲毛区支え合いのまち推進計画の進捗状況について
			・支え合いのまち稲毛(区推進協だより)の発行について
			・地域包括ケアの推進について
平成28年度	第3回	平成28年3月17日(木)	・稲毛区支え合いのまち推進計画の平成27年度進捗状況について
			・支え合いのまち稲毛(区推進協だより)の発行について
平成28年度	第1回	平成28年7月13日(水)	・平成27年度稲毛区推進計画の推進状況について
			・稲毛区推進計画の平成28年度の取組みについて
			・健康づくり事業について

◆稲毛区内の地区部会エリア数 … 12

No.	地区部会名	活動対象区域
1	小中台東地区部会	小中台町、園生町の一部、宮野木町の一部
2	山王地区部会	山王町、小深町、六方町、長沼原町の一部
3	轟・穴川地区部会	轟町、穴川、穴川町
4	稲毛地区部会	稲毛、稲毛町、稲毛東5～6丁目
5	稲丘地区部会	稲丘町、稲毛台町、稲毛東1～4丁目、稲毛1丁目の一部、 黒砂4丁目の一部、小仲台1丁目の一部
6	千草台中学校地区部会	千草台、萩台町、天台町、天台2～6丁目
7	草野地区部会	あやめ台の一部、園生町の一部、長沼町の一部、長沼原町の一部
8	緑が丘地区部会	柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部
9	301(作草部・天台)地区部会	作草部、作草部町、天台1丁目
10	緑・黒砂地区部会	緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目
11	小中台西地区部会	小仲台1丁目の一部～9丁目
12	弥生地区部会	弥生町、黒砂台3丁目の一部

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
小中台東地区部会エリア	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	地区部会や町内自治会、学校、青少年育成委員会が、連携・協働し、あいさつをテーマにした標語を募集し、「東西社協まつり」や広報紙(地区部会だより「かわら版」)などで標語作品の広報啓発を図るとともに、セーフティウォッチャーなどと連携・協力して、地域の中であいさつの浸透に努める。	地区部会が、あいさつをテーマにした標語を広報紙(かわら版)や町内自治会の掲示板、小学校4校(小中台・小中台南・園生・柏台)を通じて募集し、「東西社協まつり」で優秀作品12点を発表並びに表彰を行うとともに、広報紙などを通じてあいさつ運動の広報啓発を行った。	A	各種団体間で地域の活動の理解を深め、連携協力を図っていく必要がある。
【人口・世帯数】 21,253人、8,967世帯						
【町内自治会数】 33町内自治会	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	地区部会が、町内自治会や商店街、小・中・高等学校などと連携・協力し、イベント(東西社協まつり)を小中台中学校で開催し、幅広い世代の参加促進を図る。	小中台西地区部会と合同で、民児協や町内自治会、商店街、小・中・高等学校、区健康課などと連携・協力し、「東西社協まつり」(11月)を小中台中学校で開催するとともに、町内自治会の回覧などを通じて、幅広い世代の参加促進を図った。	A	
【高齢化率】 22.5%						
【地域の特徴】 地区部会の方が「本村」と呼ぶ園生町(一部)をはじめ、小中台町、宮野木町(一部)は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、民児協、学校などが連携・協力し、情報を共有するとともに、イベント・祭りなどの地域活動に取り組む。	地区部会や町内自治会、民児協、小・中学校などが連携・協力し、地域活動を情報共有するとともに、広報紙による情報発信や「東西社協まつり」などの企画実施に取り組んだ。	A	
	⑥ 地域での福祉講座の開催	4	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課、町内自治会、民児協と連携し、「認知症講座(年3回)」や「健康づくり講座(年3回)」を開催し、高齢者向けに健康に関する相談や認知症予防に関する情報提供を行う。	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課と連携し、高齢者などに対して「認知症講座」を3回、「健康づくり講座」を3回、新たに企画実施し、認知症予防や健康づくりに関する情報提供を行った。	A	
	⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会が、町内自治会や福祉施設などと連携・協力し、町内自治会会館や福祉施設などにおいて、いきいきサロン(年108回)や子育てサロン(年36回)など、住民同士が集える場の充実に努める。	地区部会が、町内自治会や福祉施設などと連携・協力し、町内自治会会館や福祉施設などにおいて、いきいきサロンや子育てサロンを実施し、居場所づくりに取り組んだ。	A	
	⑩ 地域のできる介護予防の普及	2	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課、町内自治会、民児協と連携し、「認知症講座(年3回)」を開催し、高齢者向けに認知症予防に関する情報提供を行う。	地区部会があんしんケアセンターと連携し、高齢者などに対して「認知症講座」を3回、新たに企画実施し、認知症予防に関する情報提供を行った。	A	
	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	地区部会が、民児協と連携・協力し、75歳以上の高齢者に対して、緊急時に迅速に対応できるよう、あんしんカードの更新を行う。	地区部会が、民児協と連携・協力し、75歳以上の高齢者に対して、緊急時に迅速に対応できるよう、あんしんカードの更新(212人)を行った。(現在2,420人に配付) また、2町内自治会が千葉市と新たに避難行動要支援者名簿の協定を結び、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりを行った。	A	
⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会が、町内自治会や民児協など連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、日常的な声かけなどによる安否確認等、見守り活動実施地区の拡充に努めるとともに、防犯の体制づくりに努める。	6町内自治会が、一人暮らし高齢者等に対して、声かけなどによる安否確認等、見守り活動に取り組むとともに、4町内自治会が防犯パトロール隊による防犯活動に取り組んだ。	A		

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
山王地区部会エリア	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	学校やセーフティウォッチャーが、青少年育成委員会や町内自治会などと連携・協力し、児童・生徒の登下校時等にあいさつ運動を行うとともに、住民同士のあいさつが浸透していくよう努める。	地区部会が、青少年育成委員会や町内自治会、学校と連携・協力を図るため、話し合いを持つとともに、セーフティウォッチャーが、山王小学校・山王中学校の周辺において、登下校時に児童・生徒にあいさつ運動を行った。	A	新たな担い手を育成確保する必要がある。
【人口・世帯数】 15,396人、6,965世帯						
【町内自治会数】 11町内自治会						
【高齢化率】 24.7%						
【地域の特徴】 古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。						
轟・穴川地区部会エリア	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、民児協、学校などが連携・協力し、情報を共有するとともに、イベント・祭りなどの地域活動に取り組む。	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが連携・協力し、地域活動の情報を共有するとともに、祭りや防犯などの地域活動に取り組んだ。	A	新たな担い手を育成確保する必要がある。
	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、日常的な声かけなどによる安否確認等、見守り活動実施地区の拡充に努める。	3町内自治会が一人暮らし高齢者等に対して、定期的な訪問、声かけなどによる安否確認を行うとともに、新たにいきいきサロンを増やし、見守りの機会の拡充を行った。	A	
	⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7	町内自治会が、千葉市消防署などと連携し、地域住民に対して防災訓練を行うとともに、防災講座などを実施し、災害時に備えた住民一人ひとりの危機意識の向上を図る。	山王公民館と地区部会が共催で、9月に防災講座を企画し、市政だよりや町内自治会などを通じて、地域住民に対して、災害時に備えた危機意識の向上に取り組んだ。	A	
	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会や青少年育成委員会が、連携・協力し、地域住民に対して、「こども110番のいえ」の協力者や住民同士の見守り活動による防犯体制の充実に努める。	青少年育成委員会が主体となって、地域住民や商店等に対して、「こども110番のいえ」の協力者の募集に努めるにあたって、福祉活動推進員も協力するなど、また、警察などと連携し、見守り活動の取組と併せて、住民同士の防犯体制の充実に努めた。	A	
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、民児協、学校などが連携・協力し、情報を共有するとともに、イベント・祭りなどの地域活動に取り組む。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが、地域のイベントや防犯・防災活動を実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組んだ。	A	
轟・穴川地区部会エリア	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会が、町内自治会や老人クラブなどと連携・協力し、高齢者に対して、いきいきサロン(年105回)や散歩クラブ(年12回)などを実施し、健康増進を図る。	地区部会が、町内自治会や老人クラブなどと連携・協力し、いきいきサロン、散歩クラブなどを通じて、高齢者に対して健康増進に取り組んだ。	A	担い手の育成確保を図る必要がある。 地域の各種団体と連携協力し、地域の活動に取り組む必要がある。
	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	町内自治会が、千葉市と連携し、平常時から災害時要支援者の把握をするなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努める。	2町内自治会が、千葉市と連携し、避難行動要支援者名簿を基に、平常時から支援体制づくりに取り組んだ。 また、5町内自治会が、千葉市消防署と連携し、地域住民に対して災害時に迅速な対応ができるよう9月に防災訓練を行うとともに、2月に轟町中・小・第二養護避難所運営委員会主催の避難所運営訓練を行った。	A	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
稲毛地区部会エリア	③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが、イベント(敬老会や地区運動会など)などを実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組む。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、青少年育成委員会、婦人会、PTA、小・中学校、幼稚園、地域保健推進員が、イベントなどを実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組んだ。	A	サロンなどにおいて男性の参加が少ないため、男性の参加率の向上を図る必要がある。 活動拠点における参加者受入れに制約があり、実施回数などの検討する必要がある。
【人口・世帯数】 10,895人、5,018世帯						
【町内自治会数】 16町内自治会						
【高齢化率】 21.5%						
【地域の特徴】 南北に延びる稲毛区の最南に位置し、昭和の埋め立て始まる前は、浅間神社の下に東京湾が広がり、あさりと海苔のまちとして栄えた。エリア内にはJR線と京成線が走り、また、南部には国道も敷かれており、どこへの移動も大変便利である。						
稲丘地区部会エリア	⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会が、千葉市教育委員会や町内自治会などと連携・協力し、公民館や町内自治会館などにおいて、ふれあい食事サービス(年2回)やいきいきサロン(年34回)、子育てサロン(年7回)、ふれあい広場(年1回)などの居場所づくりに努める。	地区部会が、町内自治会などと連携・協力し、公民館や町内自治会館において、ふれあい食事サービスやいきいきサロン、子育てサロン、散歩クラブ、ふれあい広場などの居場所づくりに取り組んだ。	A	新たな担い手を育成確保する必要がある。
			⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターと連携し、いきいきサロン(年34回)や子育てサロン(年7回)、散歩クラブ(年1回)などを通じて、健康体操や歌の会、健康相談などを実施し、健康増進を図る。	
	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2			地区部会が、区健康課やあんしんケアセンターと連携し、いきいきサロン(年34回)、散歩クラブ(年1回)などを通じて健康体操や歌の会、健康相談などを実施し、介護予防を図る。	
			① 挨拶から始まる地域との関わり	1	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努める。	
	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1			地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが企画実施するイベント・祭り(夏祭り・地区運動会、餅つき大会など)に、幅広い世代が参加できるよう、町内自治会などの広報により、多くの地域住民の参加促進を図る。	
			③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域のイベント・祭りなどを実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組む。	
	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5			地区部会や町内自治会などが、一人暮らし高齢者等に対して、イベントなどの機会を通じて声かけを行うとともに、地域内の連絡網体制の整備に努める。	
			⑤ 福祉活動の中核となる人材の発掘・育成	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際に、相互に地域活動の協力者の確保に努める。	
	⑥ 地域での福祉講座の開催	4			地区部会が、町内自治会などと連携し、地域住民に対して地域活動の理解者や協力者を得るために、千葉市の出前講座やボランティア講座などを企画実施する。	
			⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、連携・協力して、イベント・祭り(夏祭り・地区運動会、餅つき大会など)などを企画実施し、幅広い世代の参加・交流を図る。	
⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会が、町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、ふれあい食事サービス(年16回)や子育てサロン(年1回)など、住民同士が集える場の充実に努める。			地区部会が、町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、ふれあい食事サービスやいきいきサロン、子育てサロンなどを実施し、住民同士が集える居場所づくりに取り組んだ。	A
		⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	スポーツ振興会や町内自治会が、連携・協力し、地区運動会などを企画するとともに、地域住民に対して参加を促し、健康増進を図る。	スポーツ振興会や町内自治会が、連携・協力し、稲丘小と稲毛公園でグランドゴルフ大会や地区運動会を企画し、町内自治会の回覧などを通じて地域住民に参加を促すとともに、健康増進に取り組んだ。	A
⑩ 地域でできる介護予防の普及	2			地区部会や町内自治会などが、区健康課と連携し、地域の活動(会合やグランドゴルフ、敬老会など)の際に、高齢者に対して介護予防の相談や情報提供を行う。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会が、いきいきサロンやグランドゴルフ大会を実施し、高齢者に対しての介護予防に取り組んだ。	A

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8～10割)
- B:一部目標を達成した。(5～7割)
- C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
稲丘地区部会エリア						
	⑪ 地域の情報の収集と発信	3	地区部会や町内自治会などが、地域の活動を情報収集するとともに、地域住民に対して広報紙等により必要とされる情報を発信する。	地区部会の役員会において、各種団体が行う活動情報の収集や、各種団体の会議などに相互に参加し、情報を共有するとともに、地域住民に対して、地区部会や3町内自治会などの広報紙などにより、地域の活動の情報発信に取り組んだ。	A	新たな担い手を育成確保する必要がある。
	⑫ 身近な地域の相談相手の確保	3	地区部会や町内自治会、民児協などが、様々な活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努める。	地区部会や町内自治会、民児協などが、各々の活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。	A	
	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	町内自治会が、千葉市などと連携・協力し、平常時から災害時要支援者や避難所運営などを把握するとともに、水害等により対応できる支援体制の強化を図る。	3町内自治会自主防災が、地域住民に対して避難訓練や防災講座などを実施した。 また、1町内自治会が避難行動要支援者名簿を千葉市と協定を結び、災害時に迅速な対応ができるよう支援体制づくりに取り組んだ。	A	
	⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7	町内自治会が、千葉市や消防署などと連携し、地域住民に対して、避難訓練や避難所開設・運営訓練を実施するとともに、防災講座などを行い、住民一人ひとりの危機意識の向上を図る。	3町内自治会自主防災が、地域住民に対して、防災訓練(避難訓練や炊き出し訓練など)を行い、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。	A	
	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会などが警察と連携し、防犯パトロールを行うとともに、地域住民の防犯意識を高めるために、犯罪発生マップ(仮)を検討する。	2町内自治会が警察と連携し、防犯パトロールを行うとともに、地域住民の防犯意識を高めるために、青少年育成委員会やPTA、警察と連携・協力し、犯罪発生マップを作成した。	A	
千草台中学校地区部会エリア	③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域のイベント・祭りなどを実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組む。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会、コミ懇、区健康課、小中学校などが、地域のイベント活動を実施する際に、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組んだ。	A	現状の活動が継続的に実施できるよう相互の連携協力が必要である。 高齢者の増加に伴い、出来るだけ多くの高齢者に参加できるよう実施回数などを検討する必要がある。
【人口・世帯数】 10,890人、5,428世帯	⑦ イベントを通じての地域交流・ 異世代交流	1	町内自治会が、イベント・祭り(神輿やどんと焼き)などを企画実施し、幅広い世代の参加・交流を図る。	町内自治会が、夏祭り(7月)や敬老会(9月)、スポーツ振興会が地区運動会(10月)、どんと焼き(1月)を企画実施するとともに、町内自治会などの広報紙等により、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。 また、5団体(地区部会・コミ懇・スポーツ振興会・青少年育成委員会・20地区連協)が実行委員会形式で文化祭(11月)を企画実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	
【町内自治会数】 9町内自治会				町内自治会が子どもから大人までを対象に、7・8月にラジオ体操を実施するとともに、高齢者や乳幼児向けにサロン(月2回)やちびっこ保育(毎週2回)を区健康課と連携・協力し、健康相談を行うなど情報提供に取り組んだ。	A	
【高齢化率】 31.4%				町内自治会が、子どもから大人までを対象にラジオ体操(7・8月)やグリーンデイ活動(毎月1回)、ティータイム(月2回)を通じて、介護予防の意識の向上に取り組んだ。	A	
【地域の特徴】 2,100世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等がある全9自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンター、千葉都市モノレールも走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内3位の40.4%である。				6町内自治会が、千葉市消防署などと連携・協力し、地域住民に対して、避難訓練や炊き出しなどを行うとともに、1町内自治会が千葉市と避難行動要支援者名簿の協定を結び、要支援者に対して災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに取り組んだ。	A	
	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会や町内自治会などが、区健康課と連携し、ティータイム(月2回 年24回)やちびっこ保育(毎週2回 年96回)などを通じて、高齢者や乳幼児向けに健康に関する相談や情報提供を行う。			
	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会や町内自治会などが、高齢者に対してラジオ体操やグリーンデイ活動、憩いの場(ティータイム月2回 年24回)などを通じて、介護予防の意識の向上を図る。			
	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	町内自治会が、千葉市と連携・協力し、平常時から災害時要支援者を把握するなど、災害時に迅速な支援ができるよう支援体制づくりに努める。			

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
- 4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
- 7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
- S:目標を上回った。
- A:概ね目標を達成した。(8～10割)
- B:一部目標を達成した。(5～7割)
- C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
草野地区部会エリア	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	町内自治会や青少年育成会などが、あいさつの標語を広報紙などを通じて広報啓発するとともに、住民同士のあいさつを通じて、子どもから大人までが顔なじみの関係づくりに努める。	1町内自治会や青少年育成会などが、あいさつの標語を町内自治会の広報紙(毎月)などにより広報啓発するとともに、セーフティウォッチャーや住民同士のあいさつを通じて、子どもから大人までが顔なじみの関係づくりに努めた。	A	新たな担い手を確保する必要がある。 各種団体が相互に連携協力を図り、各種活動を維持する必要がある。
【人口・世帯数】	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	町内自治会やスポーツ振興会などが、企画実施するイベント・祭り(夏祭り・地区運動会など)に、幅広い世代が参加できるよう、町内自治会などの回覧等の広報により、参加促進を図る。	町内自治会が、夏祭り(7月)や敬老会(9月)、スポーツ振興会が地区運動会(10月)などを企画実施するとともに、町内自治会の広報紙や声かけなどにより、多くの地域住民の参加促進に取り組んだ。	A	
18,347人、8,219世帯	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが実施するイベントなどの活動において、広報等で協力者を募るなど、各種団体間の連携・協力を努める。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが実施する夏祭りや地区運動会などの地域活動において、広報等で協力者を募るなど、各種団体間の連携・協力を努めた。	A	
【町内自治会数】	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会や町内自治会が、民児協などと連携し、地域住民に対して、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」を配布するとともに、要援護者名簿を作成するなど、平常時から住民同士の見守りに取り組む。	地区部会や町内自治会が、地域住民に対して、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「緊急医療情報キッド」を配布するとともに、いきいきサロンを通じて平常時から住民同士の見守りに取り組んだ。	A	
21町内自治会	⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	9	地区部会や町内自治会などが、イベントなどの際に各種団体と連携し、広報等で協力者の確保に努める。	各種団体がイベントなどの地域活動の際に、相互に参加・協力するとともに、町内自治会などの広報紙などを通じて、地域の活動協力者の募集などに取り組んだ。	A	
【高齢化率】	⑥ 地域での福祉講座の開催	4	地区部会などが、地域活動の理解や協力を得るために、地域住民に関心をもってもらえる福祉講座などを実施する。	地区部会が、民児協や町内自治会などと連携・協力し、地域住民に対して地域の活動などに関心をもってもらえるよう、愛唱歌の集いや手話講座(シニアサイン)などの企画に取り組んだ。	A	
26.4%	⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが、連携・協力し、イベントや祭りなどを企画実施し、幅広い世代の参加・交流を図る。	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会、青少年相談員などが連携・協力し、夏祭り(7月)やラジオ体操(8月)、敬老会(9月)、地区運動会(10月)など企画実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組んだ。	A	
【地域の特徴】	⑧ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	1	地区部会と町内自治会などが連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロンなど住民同士が集える場の充実に努める。	地区部会と町内自治会、民生委員などが連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロン、ふれあい食事サービス、あやめ会(B型リハビリ教室)、敬老会などを実施し、住民同士の集える場づくりに取り組んだ。	A	
京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は、昭和41年に入居開始から48年が経過、約半世紀を経た今、稲毛区内で5番目の高齢化率(37.2%)、住民の3人に1人は高齢者となっている。高齢者(高齢化・孤立死等)と子育て(低所得・家庭崩壊等)の2つが顕著な問題である。	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域住民に対して、イベント(地区運動会など)などを実施し、健康増進を図る。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、地域住民に対して、いきいきサロンや散歩クラブ、地区運動会、グランドゴルフなどを実施し、健康の増進に取り組んだ。	A	
	⑩ 地域でできる介護予防の普及	2	地区部会や町内自治会が、あんしんケアセンターや区健康課と連携し、高齢者に対して健康体操や情報提供などを行うことにより、介護予防に努める。	地区部会と町内自治会、民児協などが連携・協力し、高齢者に対して、いきいきサロンや散歩クラブ、歌の会(愛唱歌の集い)、あやめ会(B型リハビリ教室)を実施し、介護予防に取り組んだ。	A	
	⑪ 地域の情報の収集と発信	3	地区部会や町内自治会などが連携し、地域活動などの情報を収集するとともに、地域住民に対して、広報紙を通じて地域活動などの情報を発信する。	地区部会や町内自治会、青少年育成委員会などが、地域の会合などを通じて、地域の活動情報を共有するとともに、地域住民に対して、地区部会だより(「福祉くさの」(年3回))や「町内自治会だより」、「育成委員会だより」(年3回)などを発行し、地域活動の情報提供に取り組んだ。	A	
	⑫ 身近な地域の相談相手の確保	3	地区部会や町内自治会、民児協などが、様々な活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努める。	地区部会や町内自治会、民児協などが、各々の活動を通じて、地域住民と顔なじみの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めた。	A	

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防災に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題				
草野地区部会エリア	⑬ いざというときに必要な情報把握	6	町内自治会が、民児協などと連携し、地域住民に対して、緊急時に備えて「あんしん登録カード」や「救急医療情報キット」を配布するとともに、要援護者名簿を作成し、災害時などにおける支援体制づくりに取り組む。	5町内自治会自主防災が、千葉市消防署などと連携し、地域住民に対して、災害時に迅速な対応ができるよう防災・避難訓練を実施した。 また、2町内自治会が千葉市と連携し避難行動要支援者名簿を基に、要支援者への支援体制づくりに取り組んだ。	A	新たな担い手を確保する必要がある。 各種団体が相互に連携協力を図り、各種活動を維持する必要がある。				
			⑭ 住民一人ひとりの危機意識の向上	7			町内自治会が、千葉市や消防署と連携し、地域住民に対して、防災意識を高めるために防災訓練を年1回実施するとともに、「あんしん登録カード」や「救急医療情報キッド」を配布するなど、災害時における支援体制づくりに取り組む。	5町内自治会自主防災が、千葉市消防署などと連携し、地域住民に対して防災・避難訓練を実施するとともに、防災講習などを実施し、住民一人ひとりの危機意識の向上に取り組んだ。 また、町内自治会がクリーンデー（7・11月）と階段会議と併せて、民生委員と協力し、「無事ですカード」の安否確認訓練に取り組んだ。	A	
			⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6			地区部会や町内自治会、青少年育成委員会などが連携し、地域住民に対して、防犯パトロールや防犯ウォーキングなどを実施し、地域の防犯の抑止力を高める。	町内自治会と青少年育成委員会が連携し、夏祭りなど、防犯活動に取り組んだ。 また、町内自治会が防犯パトロールに取り組むとともに、草野エリアでは千葉北警察署と連携し、青色パトロールに取り組んだ。	A	
緑が丘地区部会エリア	② 地域へのイベント・祭り、町内自治会行事などへの参加促進	1	町内自治会や青少年育成委員会、スポーツ振興会などが企画実施するイベント・祭り（夏祭り・緑ンピック・地区運動会）に、幅広い世代が参加できるよう、町内自治会などの回覧等の広報により、多くの地域住民の参加促進を図る。	町内自治会（7・8月「夏祭り」）や青少年育成委員会（9月「緑ンピック」）、スポーツ振興会（10月「地区運動会」）などにおいて、イベントを企画実施するとともに、町内自治会の回覧や口コミにより、多くの地域住民の参加促進に取り組んだ。	A	担い手の育成確保を図る必要がある。 各種団体が相互に地域の活動に参加協力し、各イベント等を継続的に実施する必要がある。				
【人口・世帯数】 19,107人、8,397世帯			③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4			地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会など、地域の各種団体が企画実施するイベントなどの活動に際し、相互に連携・協力して活動の場づくりに努める。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会など、地域の各種団体が企画実施する祭りなどのイベント活動や防犯活動において、相互に連携・協力して活動の場づくりに努めた。	A	
【町内自治会数】 21町内自治会							⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	9		幅広い世代が、地域の活動に関心をもち、担い手として参加・協力を得られるよう、各種団体が活動に参加・協力し、近隣住民と顔なじみの関係をつくるとともに、担い手の確保につなげる。
【高齢化率】 29.8%	301（作草部・天台）地区部会エリア	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	青少年育成委員会があいさつをテーマにした標語を募集し、標語作品を地区部会の広報紙で広報するとともに、町内自治会やセーフティウォッチャーなどと連携・協力して、地域の中であいさつの浸透に努める。	青少年育成委員会が、あいさつをテーマにした標語を3校（都賀小・千草台東小・都賀中）の児童・生徒から募集し、優秀作品4点を各学校で表彰するとともに、地区部会や青少年育成委員会の広報紙に掲載、町内自治会の掲示板等にポスターを掲示するなど、広報啓発を図った。	A			担い手の育成確保を図る必要がある。 現状の活動を継続していく必要がある。	
【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい方とが融合している。				③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	4		町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会、地区部会、PTAなど地域の各団体が連携・協力し、それぞれ特徴あるイベントを充実する。	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会、地区部会、民児協、PTAなどが相互に連携・協力し、各団体の地域活動に取り組んだ。		A
【町内自治会数】 21町内自治会							⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1		
【高齢化率】 22.3%	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが、いきいきサロン、散歩クラブ、グランドゴルフ、ラジオ体操などを実施し、健康づくりへの参加者を増やし、健康増進を図る。	地区部会（いきいきサロン、散歩クラブ）や町内自治会（ラジオ体操）、スポーツ振興会（「あるけあるけ大会」「グランドゴルフ大会」）、PTA（ラジオ体操）などが、高齢者等に対して健康づくりの場を設けるとともに、健康増進に取り組んだ。	A					
【地域の特徴】 中央区、若葉区との境に接しているため、地域内にある都賀小学校へは稲毛区、中央区から、千草台東小学校へは若葉区、中央区、稲毛区の児童が通学している。また、都賀中へは稲毛区、若葉区、中央区の生徒が通学している。自治会が結成されていない主なマンションは5力所、350世帯ある。			⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6		青少年育成委員会などが、商店、事業所、住民等の協力を得て、緊急時の「こども110番のいえ」や、登下校を見守るセーフティウォッチャーの協力者を増やすとともに、町内自治会で行っている防犯パトロールなどを通し、防犯体制を充実する。	青少年育成委員会などが、商店、事業所、住民等の協力を得て、緊急時の「こども110番のいえ」（80ヶ所⇒122ヶ所）や、登下校を見守るセーフティウォッチャーの協力者（18人⇒19人）を増やすとともに、5町内自治会が防犯パトロールを行い、地域内の防犯活動に取り組んだ。	A		

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
- S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
緑・黒砂地区部会エリア	⑮ 地域住民を地域で守る取り組み	6	地区部会が、町内自治会や民児協などと連携・協力し、活動の趣旨に賛同し登録した方を対象に、日常的な声かけなどによる安否確認等による見守り活動の仕組みづくりを協議しながら進める。	地区部会が、「地域見守り隊」準備委員会を発足し、町内自治会や民児協に対して説明会を実施するとともに、地区部会だよりや全戸へ「地域見守り隊」のチラシを配布し、見守り利用者及び協力員の募集を行った。 また、10月に見守り利用者及び協力員、両希望者に対して見守り活動に関する説明会を実施し、見守り活動を開始した。	A	町内自治会や民児協、老人クラブと連携協力を継続的に図る必要がある。 協力員を含めた登録者について、全世帯への広報を継続的に図る必要がある。 協力員を含め定期的に問題や課題を情報共有する機会を設ける必要がある。
【人口・世帯数】						
7,391人、3,738世帯						
【町内自治会数】						
7町内自治会						
【高齢化率】	① 挨拶から始まる地域との関わり	1	地区部会が「あいさつ・声かけ運動」のチラシを町内自治会の回覧板や掲示板への掲示、及び小中学校各クラスに配付して周知を図るとともに、あいさつをテーマにした標語を募集し、「東西社協まつり」(11月)や広報紙などで標語作品の広報啓発を行います。 また、セーフティウォッチャーなどと連携・協力して、地域の中であいさつの浸透に努める。	地区部会が、あいさつをテーマにした標語募集を小学校4校(小中台・園生・小中台南・柏台)に依頼し、表彰作品14点を「東西社協まつり」で発表並びに表彰を行い、社協だよりなどにより広報啓発を行うとともに、3月にあいさつ運動の浸透を計るために、地区部会関係者にアンケート調査を実施した。	A	あいさつ声かけ運動を浸透するために、学校や家庭を含めて継続的に連携協力する必要がある。 いきいきサロンなど住民同士の見守りの場づくりの拡充を図っていく必要がある。
20.6%						
【地域の特徴】						
JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目をエリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。						
【地域の特徴】						
小中台西地区部会エリア	④ 地域住民の参加による支援や見守り	5	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して、閉じこもり予防のために、いきいきサロンを実施するとともに、孤立死、孤独死、社会的孤立を未然に防ぐだけでなく、災害時に備えて日常生活の中で無理なく行える住民同士の見守りを実施する。	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して、閉じこもり予防のために、いきいきサロンを実施するとともに、町内自治会や住民が日常生活の中で、無理なく行える住民同士の見守り活動に取り組んだ。	A	
【人口・世帯数】						
19,938人、9,140世帯						
【町内自治会数】						
18町内自治会						
【高齢化率】	⑦ イベントを通じての地域交流・異世代交流	1	地区部会が、町内自治会や民児協と連携・協力し、高齢者等に対して、閉じこもり予防のために、いきいきサロンを実施するとともに、孤立死、孤独死、社会的孤立を未然に防ぐだけでなく、災害時に備えて日常生活の中で無理なく行える住民同士の見守りを実施する。	地区部会が、若い世代をはじめ、異世代交流が図れる「ハロウィン祭り」(10月)を新たに企画実施するとともに、地区部会の広報紙(かわら版)の回覧や呼びかけなどを通じて、多くの参加促進を促し、地域交流の場づくりに取り組んだ。	A	担い手を育成確保していく必要がある。
20.9%						
【地域の特徴】						
小中台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在しているのが特徴である。						
【地域の特徴】						
弥生地区部会エリア	⑨ 健康づくりの普及・啓発	2	地区部会が、あんしんケアセンターや町内自治会、民児協と連携し、「出前講座(年1回)」や「くるま座Q&A(年2回)」を開催し、高齢者向けに健康に関する相談や情報提供を行う。	地区部会が、あんしんケアセンターや町内自治会、民児協と連携し、「出前講座(年1回 9月)」に開催し、高齢者向けに骨密度など、健康に関する相談や情報提供を行った。 また、あんしんケアセンターや町内自治会、社協区事務所と連携し、「くるま座Q&A(年2回 11・2月)」を開催し、健康体操や介護保険の情報提供、意見交換を行った。	A	
【人口・世帯数】						
671人、366世帯						
【町内自治会数】						
3町内自治会						
【高齢化率】	⑩ 地域のできる介護予防の普及	2	地区部会が、町内自治会や民児協、あんしんケアセンターと連携し、高齢者に対して、いきいきサロン(年9回)や体操教室(年1回)等を実施し、介護予防の普及を図る。	地区部会が、町内自治会や民児協、あんしんケアセンターと連携し、高齢者に対して、いきいきサロンを実施するとともに、体操教室を実施し、介護予防の普及に取り組んだ。	A	
17.4%						
【地域の特徴】						
稲毛区弥生町及び黒砂台3丁目の一部が対象地域。稲毛区の南部に位置し、JR西千葉駅、京成線みどり台駅から徒歩圏内の住宅地となっており、千葉大学に隣接していることも特徴の一つである。弥生町自治会、弥生県営住宅弥生会、東京大学西千葉宿舍自治会の3町内自治会で構成され、総世帯数は約370世帯、他の地区部会と比較すると、非常に小さな規模の地区である。						
【地域の特徴】						

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

主 な 成 果	・14地区部会エリアにおいて、重点取組項目数は合計59項目、その内、新規事業は26項目。拡充・拡大事業の項目数は合計33項目であった。 ・目標を上回って達成した取組みは12項目、概ね目標達成が31項目、一部目標達成が9項目、大きく目標を下回ったものが7項目であった。
今 後 の 課 題	・活動拠点等の確保 ・地区部会と町内自治会との連携 ・活動資金の確保

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8～10割)

B: 一部目標を達成した。(5～7割)

C: 大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	20	・子育てサロン実施について、町内自治会へ回覧板で周知し、また幼稚園送迎保護者や公園等において若い世代への積極的な声掛けを実施した結果、62名(保護者30名・子32名)・ボランティア15名の参加者を得た。(既存の「子育てサロン びーなっつ」への参加を勧めた。)	S	3
			A	12
			B	4
			C	1
2 健康づくり	6	・健康づくりの啓発活動として、自治会ニュース、回覧板、口コミによる周知等により、地域住民に対し、町内自治会等において実施している行事への参加を呼びかけた。	S	3
			A	2
			B	1
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	4	・「地区部会だより」を年3回発行した。 ・委員が広報誌作成講座を受講し、「見出し」や「記事内容」に研修成果を反映することができた。記事は地域活動の報告を主としているが、自治会等と連携を図り、内容を充実させた。原稿の受け渡しや紙面構成は、委員全員がメールを活用し、編集作業が効率的に進められ、充実した委員会活動が出来た。	S	0
			A	3
			B	0
			C	1
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	7	・作成した広報誌「ご近助だより」第1号では、「地域福祉の主体は「住民」であり、住民相互の心のつながりづくりこそが福祉活動のベースである」ことを伝え、要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化を促進した。	S	0
			A	3
			B	3
			C	1
5 見守り体制の構築	3	・75歳以上のひとり暮らしの方へ、安心カードを配布した。 ・月1回開催の定例会で情報交換を行った。	S	0
			A	3
			B	0
			C	0
6 防犯に対する取組み	5	・自治会単位で千葉東警察署の青色灯パトロールカーを借り、年3回の巡回を行っている。 ・毎日(朝、昼、晩)3回、登録者総数108名のボランティアが交代制でパトロールを実施している。	S	1
			A	2
			B	0
			C	2
7 防災に対する取組み	9	・自治会と連携し、「向こう三軒両隣・防災・助け合いマップ」の骨格を決定した。またモデル地区を選定し、当該自治会と作成に向けて、具体的な協議を開始した。	S	3
			A	3
			B	1
			C	2
8 福祉教育・啓発	3	・民生委員・児童委員等の協力体制を構築し、小学生と地域高齢者等、異世代の交流の場として、ふれあい活動を実施した。(参加者74名うち小学生32名) ・市社会福祉協議会、保健師等関係者の協力のもと、子育てサロンを実施し、親同士の連携や相談できる環境づくりに貢献した。(参加者30名うち親子22名)	S	1
			A	2
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	2	・地区部会の積極的な働きかけにより、社会福祉施設等における無償ボランティアや、地域の助け合い活動における有償ボランティアを発掘した。	S	1
			A	1
			B	0
			C	0
合 計	59		S	12
			A	31
			B	9
			C	7

<参考>

◆若葉区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年6月8日(月)	・各地区部会エリアにおける具体的取組みについて
			・今年度の年間スケジュールについて
	第2回	平成27年10月30日(金)	・若葉区支え合い活動アンケートの結果について
			・事例発表(加曽利地区部会、桜木地区部会、更科地区部会)
	第3回	平成27年12月18日(金)	・千葉市生活支援コーディネーターについて
			・若葉区支え合いまち推進協だよりについて
	第4回	平成28年3月18日(金)	・平成27年度の活動報告
			・次期委員の改選について
平成28年度	第1回	平成28年6月29日(水)	・運営企画委員の選任について
			・平成27年度若葉区支え合いのまち推進状況の取りまとめ等について
			・平成28年度の取組みに向けて
			・今年度の年間スケジュールについて

◆若葉区内の地区部会エリア数 … 14

No.	地区部会名	活動対象区域
1	坂月地区部会	大草町、太田町、坂月町、小倉町の一部
2	貝塚地区部会	貝塚町、貝塚2丁目
3	桜木地区部会	桜木1～8丁目、桜木北1丁目、桜木北2丁目の一部、貝塚1丁目、小倉町の一部
4	小倉地区部会	小倉台、小倉町の一部、若松町の一部
5	白井地区部会	中野町、和泉町、野呂町、川井町、五十土町、大広町、高根町、佐和町、北谷津町、中田町の一部、多部田町の一部
6	更科地区部会	古泉町、富田町、更科町、御殿町、小間子町、上泉町、下泉町、大井戸町、下田町の一部、谷当町、中田町の一部
7	御成台、千城台西・北地区部会	御成台、千城台西、千城台北、下田町の一部
8	千城台東南・金親地区部会	千城台東、千城台南、金親町
9	26地区部会	大宮台、北大宮台、大宮町の一部、多部田町の一部、緑区平山町の一部
10	若松地区部会	若松町の一部、若松台、桜木北2丁目の一部、桜木北3丁目、都賀5丁目、西都賀5丁目の一部
11	加曽利地区部会	加曽利町
12	都賀地区部会	都賀1～4丁目、西都賀1～4丁目、西都賀5丁目の一部、都賀の台
13	結・みつわ台地区部会	愛生町、殿台町、原町の一部、東寺山町、みつわ台、源町
14	千城小地区部会	大宮町の一部

◆若葉区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年6月8日(月)	・各地区部会エリアにおける具体的取組みについて
			・今年度の年間スケジュールについて
	第2回	平成27年10月30日(金)	・若葉区支え合い活動アンケートの結果について
			・事例発表(加曽利地区部会、桜木地区部会、更科地区部会)
	第3回	平成27年12月18日(金)	・千葉市生活支援コーディネーターについて
			・若葉区支え合いまち推進協だよりについて
	第4回	平成28年3月18日(金)	・平成27年度の活動報告
			・次期委員の改選について
平成28年度	第1回	平成28年6月29日(水)	・運営企画委員の選任について
			・平成27年度若葉区支え合いのまち推進状況の取りまとめ等について
			・平成28年度の取組みに向けて
			・今年度の年間スケジュールについて

◆若葉区内の地区部会エリア数 … 14

No.	地区部会名	活動対象区域
1	坂月地区部会	大草町、太田町、坂月町、小倉町の一部
2	貝塚地区部会	貝塚町、貝塚2丁目
3	桜木地区部会	桜木1～8丁目、桜木北1丁目、桜木北2丁目の一部、貝塚1丁目、小倉町の一部
4	小倉地区部会	小倉台、小倉町の一部、若松町の一部
5	白井地区部会	中野町、和泉町、野呂町、川井町、五十土町、大広町、高根町、佐和町、北谷津町、中田町の一部、多部田町の一部
6	更科地区部会	古泉町、富田町、更科町、御殿町、小間子町、上泉町、下泉町、大井戸町、下田町の一部、谷当町、中田町の一部
7	御成台、千城台西・北地区部会	御成台、千城台西、千城台北、下田町の一部
8	千城台東南・金親地区部会	千城台東、千城台南、金親町
9	26地区部会	大宮台、北大宮台、大宮町の一部、多部田町の一部、緑区平山町の一部
10	若松地区部会	若松町の一部、若松台、桜木北2丁目の一部、桜木北3丁目、都賀5丁目、西都賀5丁目の一部
11	加曽利地区部会	加曽利町
12	都賀地区部会	都賀1～4丁目、西都賀1～4丁目、西都賀5丁目の一部、都賀の台
13	結・みつわ台地区部会	愛生町、殿台町、原町の一部、東寺山町、みつわ台、源町
14	千城小地区部会	大宮町の一部

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取組みテーマ】

- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】

- S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
坂月地区部会エリア	① 地域ぐるみで声かけ・あいさつ運動の実施	1	・ラジオ体操の実施会場を3か所に増やす。 ・あいさつ運動の啓発活動を行う。	地区部会広報紙での事業実施への理解や参加促進の呼びかけや、「歩こう会」等の事業開催時に参加者への継続参加、近隣の方をお誘いすることなどの働きかけを行った。	A	災害時に避難できる体制づくりのベースとなる地図の作成、地図への掲載内容がほぼ決定した。エリア内全戸配布に伴う印刷代の確保が課題である。
【人口・世帯数】 3,984人、1,775世帯	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	坂月地区部会主催で年間各1回開催している「歩こう会」と「グラウンド大会」を「歩こう会」3回、「グラウンドゴルフ大会」2回に増やす。その中で、「歩こう会」の目的地を多様化する、「グラウンドゴルフ大会」の参加者の組み合わせを変える等の新鮮味を加える。	坂月川を遡る「歩こう会」について、26年度までは年1回の開催だったが、今年度は目標どおり年2回(10月・2月)を開催した。	A	
【町内自治会数】 5町内自治会	⑬ 防犯活動の実施	6	セーフティウォッチャーを10人及び「こども110番の家」を20軒増やす。	地区部会広報紙での取り組みへの理解、協力の呼びかけや、「歩こう会」等の事業開催時等、機会をとらえての取り組み推進の要請を行った。	C	
【高齢化率】 22.6%	⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	災害に備えて、坂月地区の避難所・危険箇所等の地図の作成・配布をする。 27年度:内容検討・調査	・災害時に避難できる体制づくりのベースとなる地図を作成した。 ・地図への掲載内容について、検討会(3回)を実施した。	A	
貝塚地区部会エリア	① 地域ぐるみで声かけ・あいさつ運動の実施	1	従来から行っている都小学校セーフティウォッチャー(登下校見守り)協力者の充実、北貝塚小学校の登下校見守り(現在は新年度の登校見守り)の充実を図る。併せて高齢者への声かけを心がける。	・都小学校の登下校児童に対する見守り協力者の人数を増やすことができ、見守り活動の拡充を図った。 ・北貝塚小学校の新入生児童に対する見守り活動については場所を2か所に増やすことができ、見守り協力者の人数も増えた。 ・以上の進捗にあたり、本取組みの必要性や理解促進、協力を得るためエリア内の自治会に対し、周知、呼びかけを行った。	A	1町内自治会で新たに結成され、目標である1箇所増となった。各町内自治会・自治会を統一して行うことが難しく、課題である。
【人口・世帯数】 6,055人、3,136世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	従来から行っている、健康セミナー・芋煮会の行事のPRに力を入れ、世代を超えて楽しめるように実施内容を工夫する。また、子どもの参加を増やす必要がある。	・従来から続けてきた芋煮会は、エリア内の全町内会・自治会、民生委員他の協力により、参加者の増加が図れた。 ・子ども向けのお話し会は現在2か所で行っているが、高齢者のふれあいの場を作るため、茶話会を試験的に実施した。	S	
【町内自治会数】 9町内自治会	⑬ 防犯活動の実施	6	防犯パトロールの人員増を強化する。パトロール隊が未結成区域に結成を目指す。	・防犯パトロール隊が未結成の町内自治会で1か所結成され、新たなパトロール活動がスタートした。 ・本取組みの理解促進や働きかけにより、エリア内の防犯意識は高まっており、残っている未結成の町内自治会にも結成を促した。	A	
【高齢化率】 19.4%	⑭ 防災・減災活動の実施	7	各町内自治会で自主防災組織がない自治会での結成を目指す。結成している町内自治会は、少しでも機能性を高めるよう努力し、PR活動を行う。また併せて助け合いができる雰囲気作りも行う。	エリア内の一部の町内自治会を対象に、防災についての講演会を実施した。これを広げられるよう地区部会として拡充を図っていきたい。	A	
桜木地区部会エリア	② 子育てしやすい環境づくり	1	地域の子育て中の親子とボランティアが自由に語らいあう場となる「ふれあい・子育てサロン」への参加組数を、広報紙やチラシ、インターネット等を活用して増やしていく。 3年後には参加者を1回あたり平均15組程度に増やしたい。	「ふれあい・子育てサロン」のチラシを作成し、公民館、社協若葉区事務所等への配架、区内子育てイベント等での配布などのPR活動を実施した。	B	今後も交流活動があるまちづくりに向け、開催会場のことも含め、地域と学校の連携について協議していく必要がある。
【人口・世帯数】 15,144人、6,898世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	現在、桜木公民館で年1回ふれあい食事会を開催している。 今後、近隣にある桜木小学校等と連携し、食事会等の中で小学生と高齢者との交流事業を検討していきたい。 27年度は、桜木小学校へ事業内容を説明し理解を得たい。	・75歳以上のひとり暮らし高齢者に対し、回覧板や民生委員の協力のもとで参加を呼びかけ、ふれあい食事会を開催した。 (2/20(土) 会場:桜木公民館 参加者71名 役員23名 計94名) ・ふれあい食事会の中で、社協若葉区事務所の協力を得て、健康講座(お話しと軽体操)を実施した。 ・桜木小学校との交流事業とするべく取り組みについては、今後の課題として学校との連絡調整の機会を設け、進めていきたい。	B	
【町内自治会数】 20町内自治会	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	地域の高齢者とボランティアによる語らいあう場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1～2回、7か所で実施している。 3年後には、サロンの担い手を増やすとともに、地域の町内自治会等と連携し、12か所に増やす。	・従来開催の「ふれあい・いきいきサロン」(7会場)は、継続して開催した。 ・サロン未実施の町内自治会へも働きかけ、開催について検討していただいている。	B	
【高齢化率】 24.2%	⑭ 防災・減災活動の実施	7	当該エリア内全町内自治会へ呼びかけ、消防署等に協力を依頼し防災訓練を実施する。 27年度は、防災訓練を検討・実施する。	・本取り組みにあたり、地区部会役員と協議を重ね、また、各町内自治会の会長への丁寧な説明に努め、相互理解のもと実施に向けた協力体制が取れた。 ・訓練の周知について、各町内自治会への回覧を依頼し、参加を呼びかけた。	A	

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
小倉地区部会エリア	② 子育てしやすい環境づくり	1	地域の実情を把握しながら、現在若松公民館で開催している「子育てサロン ぴーなっつ」の他に、地区部会エリアの中心地である小倉台中央自治会で「子育て サロン」を開催する。 ・子育て相談会、絵本の読み聞かせや手遊び、友だちづくりのおしゃべりタイム、 孫を預かる祖父母の方も歓迎。 ・周知の方法として回覧板、幼稚園送迎の保護者への案内等。	・12町内自治会への回覧板での周知 ・幼稚園送迎保護者への案内及び公園などで若い方たちへのお誘い ・エリア内にポスターにて周知 ・実施要領を策定＝「小倉子育てサロン」 対象:未就園児とその保護者 場所:小倉台中央自治会館 日時:平成27年11月6日(金)午前10時～11時30分 ・参加者62名(保護者30名・子32名)・ボランティア15名 ・その他:参加者へ既存の「子育てサロン ぴーなっつ」への参加を勧めた。	A	
【人口・世帯数】 13,118人、5,936世帯				・「ふれあい・いきいきサロン」運営委員会で企画会議(年1回)を開催、内容などを検討し ている。 ・毎月、サロン開催後に反省会及び翌月の内容などを話し合う。 ・今年度は小学生との交流会が3回、3月予定の「電力自由化」講演会(見込み参加者人 数60人)など、今後も参加者が多く見込める内容を取りあげていきたい。 ・民生委員の皆様「回覧」を1部配付して、参加を呼びかけていただいているが、更に 協力をお願いしたい。 ・老人福祉委員会の皆様にも、訪問活動の時に声掛けをお願いしたい。		
【町内自治会数】 12町内自治会				・淑徳大学吹奏楽コンサート ・介護講座(介護サポート) ・いきいき散歩クラブ(1回 ただし天候不良のため中止) ・災害時における要支援者の拠点福祉避難所運営訓練に参加 開催日時:平成27年10月15日(木)10:15～16:00 開催場所:植草学園(若葉区小倉町1639番3)		
【高齢化率】 28.0%				・本取り組みの初年度として、75歳以上のひとり暮らしの方へ安心カードを配付した。		
【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉台中央自治会 (小倉台1丁目～小倉台7丁目)がエリアの 中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅 を中心に、南北には戸建て主に住宅からな る住宅街と一部集合住宅(市営・県営)、幹 線道路沿いには商店街が広がる。				・「ふれあい・いきいきサロン」の開催は、毎月の回覧で全戸に周知し、その回覧に「お困 りごと相談」の実施を明記した。 ・サロン会場内に「相談コーナー」を設置した。 ・サロンの開催時間は午後1時から午後3時。相談コーナー開設時間は午後2時から午 後3時とした。 ・あんしんケアセンターの職員の方には、サロン中のお茶タイムの時間に「介護保険情 報」などの話をしていただいている。また、職員の方と参加者が和気あいあいと話せて気 軽に相談ができる雰囲気になってきている。		
				・「男性料理教室」は、9月に若松公民館で開催した。 ・教室開催について、回覧で全戸に周知した。 ・講師は、献立や食材の購入もあわせて、ヘルスメイト(＝食生活改善推進員)に依頼し た。 ・はじめての開催だったが、参加者からは「参加してとても良かった」との声をいただき、 今後も料理を続けたいという方が多かった。		
	⑤ 気軽に過ごせる居場所づく り	1	・「ふれあい・いきいきサロン」の中で、「お困りごと相談」を実施する。 ・「ふれあい・いきいきサロン」の参加人数の増加に力を入れる。 ・各委員が二人チームを組み、参加を呼び掛ける。		S	地域での福祉教室等の開 催と活動支援をしていく中 で、参加者募集にあたって は、全戸に回覧で周知しつ つ、ほとんどを口コミで募っ た。今後の課題としては、開 催場所等を検討し、参加者を 増やしたい。
	⑥ 障がいのある方の社会参 加と交流機会の創出	1	障害者施設との連携で障害のある方の状況を把握し、交流を積極的に進める。 障害のある方との交流会の開催を拡充する。 ①吹奏楽コンサート、②いきいき散歩クラブ、③サポート体験		A	
	⑪ 見守り活動の仕組みづくり	5	見守り活動の関心を高めるため、地域住民に対して講演会を開催し、必要性を 啓発する。 ・「安心カード」を作成し、配布する。 1年目:75歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に実施		A	
	⑰ 相談窓口の設置や出張相 談の実施	3	「ふれあい・いきいきサロン」の場でお困りごと相談を実施する。		A	
	⑳ 地域での福祉教室等の開 催と活動支援	8	健康のため、また男性が地域の人々とふれあう機会を増やすため「男性料理教 室」を開催する。		A	

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
白井地区部会エリア						
【人口・世帯数】 7,072人、3,398世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	地域の高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1回以上実施している地域を拡げていきます。 現在、実施している地域は、5か所ですが、8か所に拡げていきます。	地区連協、民生・児童委員、福祉活動推進員を中心とした会議にて推進をして頂いた。 当地区は広域な地区部会であり、各自治会単位地区で可能性のある地区を中心に開設検討を提案した。	A	月1回開催の連協会議を通して自主防災組織の組織化の必要性を話し合ってきましたが、本年度はゼロです。今後も防災・減災意識の高揚を図る必要がある
【町内自治会数】 18町内自治会						
【高齢化率】 41.9%						
【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域（西部・東部・中部）に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。	⑦ 地域のできる介護予防・健康づくり	2	「ふれあい・散歩クラブ」は、現在2地区で実施されておりますが、これを4地区に拡大して実施します。また、住民の健康維持と交流の場となるラジオ体操も、並行して一緒に取り組んで参ります。 27年度：検討期間（含：ラジオ体操）	・「散歩クラブ」「ラジオ体操」ともチラシ配布、回覧板により参加者を募集。 ・スタートできたら定着することに心がけて、参加者の拡大をはかります。 ・夏休みなどには、小・中学生の参加を呼びかけます。 ・防犯キャップ着用での早朝散歩で防犯パトロールを兼ねており、地区の安心・安全につながります。	S	
	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	9	地域住民や諸団体役員の皆様をお招きし、年一回以上ボランティア講座を実施。活動の中核となるボランティアコーディネーターの育成をはかり、登録ボランティア、福祉活動推進員を積極的に募集する。 出来るだけ多くの方に講座に参加していただき、福祉活動の意義について理解してもらい、活動に協力できる人材を発掘する。 福祉活動推進員を現在の6名を10名に増員する。	・社協若葉区事務所主催のシニアボランティア講座（3回コース）への協力 ・地域での支え合い活動の今後の進め方についての話し合い ・地域協力ボランティアの募集と確保、グループ作り ・福祉施設への地域ボランティア派遣、地域交流（社協と連携） ・福祉に関心をもつ人材の発掘と育成に努める ・第3回ボランティア講座の開催	S	
	⑪ 見守り活動の仕組みづくり	5	高齢者の孤立死・孤独死、社会的孤立を未然に防ぐため、近隣住民同士が日常生活の中で無理なく行う見守り活動、実施自治会等の数を増やす。 今後、毎年度1自治会ずつ増やし、3年後には5自治会に増やす。	・月1回開催の連協の定例会で情報交換を行ってきました。 ・12月の定例会では、25年度から活動している野呂自治会の事例を話してもらいました ・1月の定例会では、本年度から始めた多部田町自治会の事例を話してもらいました。	A	
	⑬ 防犯活動の実施	6	現在、野呂、新宮田、高根グリーンタウン、多部田の4自治会で定期的にパトロール活動を実施しているが、自治会等で防犯パトロール隊等を結成し、定期的にパトロール活動を実施する自治会等を3年後には7自治会等に拡大する。	・平成28年1月29日（金）開催の若葉区区民対話会での資料「若葉区の防犯活動の状況」により、第17地区（白井中学校区）のパトロール隊数は9団体、そのうち自治会関係の団体数は6と判明しました。 ・実質増えた自治会数はありませんが、27年度の欄に入れて訂正させていただきます。	A	
	⑭ 防災・減災活動の実施	7	現在、白井地区部会エリアでは、18自治会のうち自主防災組織が組織化されているのは、8自治会と半数未満である。 各自治会が自主防災組織を立ち上げることを目標にして、3年後には11自治会に増やす。	・月1回開催の連協の定例会で情報交換を行ってきました。 ・避難所運営委員会の設置は、比較的スムーズに行われたので、今後は、同運営委員会の会議の場で、自主防災組織の組織化の必要性を協議してもらう方向で話し合いたい。	B	
	⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	現在、避難所運営委員会の設立に向けた会議等を開催しているが、設立までには至っていない。 近年の大規模災害等の発生を踏まえ、地域で災害発生時にスムーズに避難所を開設・運営できるよう、3年後には各指定避難所3か所に避難所運営委員会を設置する。	・白井小学校・公民館避難所運営委員会については、26年度中に準備 会議を開催し、27年4月1日の設立となりました。27年度は、6月に第1回、28年1月に第2回の運営委員会を開催しました。 ・白井中学校避難所運営委員会については、27年10月の準備会議をもって運営委員会の設立が決定されました。その後、28年2月に第1回の運営委員会が開催されました。 ・泉高校避難所運営委員会については、28年2月の準備会議をもって運営委員会の設立が決定されました。	S	
	⑯ 地域福祉に関する情報の発信	3	現在、「白井地区部会だより」を年2回作成し、白井町民に配布しております。その他に、今後「地域情報」をタイムリーに作成し、発行して参ります。 ・27年度：3回	・「白井地区部会だより」を年3回発行した事により、各行事の掲載情報量が増え、写真を多く用いた紙面となり、見やすくなった。又、行事記事が早く読者に届き、ホットな話題を提供できた。 ・広報誌作成マニュアルを受講してスキルアップを図り、「見出し」や「記事内容」に研修成果を反映できた。記事は『地域活動の報告』を主目的のひとつとし、自治会等と連携をとって記事を集めた。原稿の送受や紙面構成は、委員全員がメールを活用して作業を進め、編集作業が短期間で且つ、効率的に進められ、充実した委員会活動が出来た。	A	
	⑰ ⑱福祉のこころを育む活動の実施	3	・高齢者と小・中学生との異世代交流の実施。 ・学校やPTAと連携し、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会をつくる。 ・「ふれあい・子育てサロン」を実施する。	「白井小学生とのふれあい活動」 ――地域参加者の募集方法にふれあいきいきサロンの仲間を加える―― 白井小学生と地域高齢者と異世代の交流に地域の民生委員・児童委員等の協力体制が貢献する。（参加者74名うち小学生32名） 「子育てサロン」 ――親子の申し込みにポスター及びポスターの配置が貢献する―― 千葉市社会福祉協議会、保健師等関係者の協力で、子育て中の親子が初めての出会いを自由に遊んだり、おしゃべりや情報交換で仲間づくり、母親の居場所づくりと仕組みが前進する。（参加者30名うち親子22名）	A	

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
更科地区部会エリア						
【人口・世帯数】	① 地域ぐるみで声かけ・あいさつ運動の実施	1	27年度:住民に周知 ①ポスターの作成(小学生等児童)、②要所に対するポスター掲示及び回覧、③「隣組」のCD作成(テーマソング)、④社協主催事業でのCD放送、⑤公民館、集会所でのCD放送	・27年度においては、隣組のメロディにのせた支え合いのまち推進計画の周知啓発用のCDを作成し、敬老会、親子風揚げ大会等、社協主催行事でのCD放送を行った。	A	現在、更科公民館において地域の高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1回開催しているが、当地区部会エリアは面積が広く、中心部の公民館への参加が難しい高齢者がいること、現サロン参加者の固定化などが課題である。
2,688人、1,245世帯						
【町内自治会数】	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	現在、下田町自治会館及びその周辺で親子・友達との交流の場として毎年12月に親子風揚げ大会を実施している。 中学生・高校生・大学生等の若い世代の参加・協力を促す。 3年後には、この世代の参加者を増員する。	・現在、下田町自治会館及びその周辺で親子・友達との交流の場として、毎年12月に風揚げ大会を実施しており、今年度12月にも実施された。 ・今回の開催にあたり、日本風の会、及び千葉市を美しくする会からの支援、協力を得ることができ、意義ある連携を図ることができた。	A	
【高齢化率】						
37.9%						
【地域の特徴】	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	現在、更科公民館で地域の高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1回実施している。 3年後には、サロンの担い手を増やすとともに、地域の自治会館等を活用し、5か所に増やす。	・開催か所数は現行の1か所で維持となった。 ・現在、更科公民館において地域の高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあい・いきいきサロン」を月1回開催しているが、当地区部会エリアは面積が広く、中心部の公民館への参加が難しい高齢者がいること、現サロン参加者の固定化などが課題である。	B	
対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,688人)、世帯数(1,245世帯)は一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率が高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	①避難所運営委員会(以下:委員会)設立準備会の立ち上げ(準備会メンバー表作成、会議開催)、②委員会規約作成(委員会委員名簿、活動班名簿、基礎データ作り)、③委員会設立(使用範囲、使用方法、詳細ルール作り)	・千葉市が設立を進めている避難所運営委員会について、当エリアでも更科小、更科中、更科公民館のそれぞれで設立できた。 ・第18地区連協は、各町内自治会とも会長の1年交代ルールがあり、現在取り組んでいる事項は進捗されるが、新たに始める事項や支え合いのまち推進計画などの話は、なかなか理解や協力が得られないことがある。	C	
御成台・千城台西北地区部会エリア						
【人口・世帯数】	② 子育てしやすい環境づくり	1	27年度:近隣地域で実施している「子育てサロン」の実情を把握しながら検討する。試行的に現在の事業の中に組み入れて対応できるか併せて進めていく。	・今年度は「こどもサロン」のネーミングでの実現は無理だった。次年度は親子行事の一環として位置付ける方向で話し合っていく必要がある。 ・導入のための検討をし始めた段階であり、特段の報告はなし。	C	今年度は「こどもサロン」のネーミングでの実現は無理だった。次年度は親子行事の一環として位置付ける方向で話し合っていく必要がある。
10,356人、4,772世帯						
【町内自治会数】	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	27年度:いきいき健康体操事業を組み入れる。各自治会が事業の一環として取り組んでもらうようサポートしていく。 ①サルコペニア(筋肉喪失):握力・歩く速さ ②生活不活発病(生活意欲の低下・引きこもり)	・地区部会広報紙86～91号において、健康づくり、認知症予防の啓発を行った。 ・自治会の申し出により、握力測定会を行った。 ・地区部会の事業、他団体の事業の中で握力測定を行った。 ・千城台東南・金親地区部会の「観光寿命を伸ばそう」に講師として協力した。 ・エリア内町内自治会へ声をかけ、「地域でできる介護予防・健康づくり」について説明会を実施した。興味を示した自治会もあり、事業参加者を増やしている。 ・握力計2台を購入し、今後傾注していきたい。	S	
18町内自治会						
【高齢化率】						
33.3%						
【地域の特徴】	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	27年度:千葉市あんしんケアセンターと連携し、関係団体との情報交換体制を進める。	・千城台東南・金親地区部会福祉ネットワーク委員会の依頼を受け、「健康寿命を伸ばそう」事業に講師として協力した。 ・ふれあい・いきいきサロンにおいて、あんしんケアセンター千城台の協力を得てセンター長に講義いただいた。	C	
モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。						

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成状況	今後の課題
千城台東南・金親地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	現在3か所で各会場月1回サロンを開催している。 サロンの参加者数を増やすため、対象者の年齢及び対象条件を拡大し、地域の民生委員・町内自治会の方々に協力を要請する。 キャバシティの問題もあるが、3年後に各会場15～20人程度まで参加者を増やす。	・民生委員・児童委員の高齢者実態調査時に「ふれあい・いきいきサロン」へのお誘いやチラシの手渡しをお願いした。 ・当地区部会エリアの15町内自治会へ上記チラシの反回覧をお願いした。 ・一人での参加は勇気があるようで、民生委員・児童委員と一緒に会場へ足を運んでくれることで参加者も増えた。参加者が友人知人を誘ってくれることも効果がある。 ◆サロン憩 会場である自治会館のホールが広く、人数増率が高い。 ◆サロン南町 会場の南小学校が耐震工事のため、2階の余裕教室への会場変更もあり、参加人数が若干減少した。(足腰が弱い方が多い。) ◆サロン東町 会場である教会の一部屋が狭く、人を増やしやすいは毎回17人くらいの方が来る。	A	動団体同士の連携・交流の取組の中で、エリア内の町内自治会との接点はどうしたらよいのか模索中。
【人口・世帯数】 11,123人、5,345世帯				・市社協若葉区事務所のご指導により「顔の見える関係づくり交流会」に出席、御成台、千城台西・北地区部会、千城台東南・金親地区部会、千葉市あんしんケアセンター千城台の3者が若葉区事務所に集まり、これから大きな地域として横断的に交流を図っていくこととなった。 ・御成台、千城台西・北地区部会の大西部会長に講師依頼し、「健康寿命を伸ばそう」という講演秋を実施した。 ・御成台、千城台西・北地区部会主催の福祉講座「ポッチャ」(開催日:12月2日・2月10日の2回)へ、当地区部会より参加させていただいた。 ・上記のことは本取り組みの進捗へと繋がり、また成果でもある。 ・エリア内の町内自治会との接点はどうしたらよいのか模索中。		
【町内自治会数】 17町内自治会				・市の指導のもと、8月に旭小学校避難所運営委員会による避難所開設訓練に、避難住民として体験参加した。 ・当地区部会としては次年度も委員会メンバーとして引き続き協議を重ね、平常時から災害に備えた体制づくりに協力したい。		
【高齢化率】 35.9%	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	地区部会(民児協含む)、町内自治会、市あんしんケアセンター千城台の三者が連携し、地域で抱える課題を明確化し、共有化された課題を解決していくため地域ケア会議を実施する。 27年度:隣接する御成台、千城台西・北地区部会と合同で年1回開催する。		A	
【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	⑮ 災害時に避難できる体制づくり	7	大規模発生時の避難所運営をスムーズに行うため、平常時から協力体制を整える。すでに当該エリアの避難所運営委員会はすべて設置されているので、全避難所運営委員会合同の訓練を行う。 27～28年度:各避難所運営委員会にて訓練(HUG・DIG)を行う。		C	
26地区部会エリア	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	1	ラジオ体操の実施場所を増やす。 大宮台自治会:4、北大宮台自治会:2、いずみ台ローズタウン自治会:2、他町内自治会単位:5 合計:13 ・グラウンドゴルフ大会への参加促進 ・ふれあい食事会への参加促進	・さくら自治会において、自治会長が近隣のチビッツ広場の草刈りをし、ラジオ体操を始めてくれた。 ・大宮台3丁目と清水町内自治会において、小学校の夏休みの最終週に毎年続けてラジオ体操を実施している。通年開催となるよう働きかけていきたい。 ・清水町内自治会は、町内自治会エリアに広場や公園がないため、開催場所の検討が必要である。(夏休みのラジオ体操は幼稚園の駐車場を借りて実施している。)	A	地域でできる介護予防・健康づくりの取組について、各町内自治会とも高齢化に伴う担い手確保が至難となっている中、現状を衰退させないよう今まで築きあげた事業、行事を継続していけるかが課題である。
【人口・世帯数】 7,883人、3,536世帯				・町内自治会など各組織において取り組んでいる各種行事等への参加の呼びかけを行った。 ・本取り組みにあたり、自治会ニュース、回覧板、ロコミによる周知・啓発を行った。 高齢化が進む中で、呼びかけに応じてくれる人が少ない。1つの行事でも、1回の参加でもしてもらえると、取組は良い方向に向かうと思われるが、各自、役員・理事などの役職についている時は行事に参加するが、1年の任期が終わると参加が遠のいてしまうのが現状である。どの行事へも1年に1人でも2人でもいいので、続けて参加してくれることを望みたい。		
【町内自治会数】 8町内自治会				以下のすべての事業、行事を継続する。 早起きラジオ体操／元気で歩こう会／安心カード／安否確認電話連絡／高齢者見守りネットワーク／一人で避難できない人の介助／公園清掃除草／花壇手入れ／ゴミ出し支援／買い物支援		
【高齢化率】 44.2%	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2			S	
【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年～42年にかけて、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地(当時戸建住宅2,040戸)である。	⑬ 防犯活動の実施	6	防犯・防災パトロールの実施自治会数を増やす。	・みどり自治会:2組に分かれて週2回のパトロールとあわせた見守り活動を実施した。 ・さくら自治会:自治会内を3地区に分け、最低週1回のパトロールとあわせた見守り活動を実施した。実施者は役員が主。 ・青葉町内自治会:役員2名により、パトロールとあわせた見守り活動を実施した。 ・大宮台自治会:千葉東警察署事件だより(抜粋)を放送しながらの青色灯パトロールカーによる巡回を毎週1回実施した。 ・いずみ台ローズタウン自治会:東警察署の青色灯パトロールカーを借りて、年3回の巡回を行っている。また、毎日の朝、昼、晩に登録者総数108名のボランティアが班編成のもとでパトロールを実施している。	S	

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
若松地区部会エリア	② 子育てしやすい環境づくり	1	27年度は募集チラシを作成し、自治会回覧を利用して周知する。常時3組から5組参加できるようにする。	・若松町北部自治会集会所の「ふれあい・子育てサロン」では、母親同士の声かけもあり、常時5～6組の参加が得られている。 ・若葉区健康課の保健師の協力により、母親の心配ごとの相談ができた。 ・「何もなくてもここに来るだけでホッとする」「友達ができてうれしい」という声もあった。 ・若松台3丁目自治会館の「ふれあい・子育てサロン(さくら)」に関しては、声かけもしているが、参加者増の成果にはなかなかつながらない。	A	気軽に過ごせる居場所づくりの取組みについて、一人暮らし高齢者、高齢者世帯の情報にはなかなか得られないので、いかに民生委員の方々と連携し活動を進めていけるかが課題である。
【人口・世帯数】 19,840人、8,815世帯						
【町内自治会数】 13町内自治会						
【高齢化率】 26.3%						
【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとても広く、住基人口(19,840人)、高齢者数(5,225人)、世帯数(8,815世帯)は区内エリアで二番目に多い。 若松台2丁目の高齢化率(46.9%)は非常に高い。	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	27年度は若松町北部自治会館で、いきいきサロンの新規開催に取り組む。また、若松地区部会全体を対象に講演会を実施。	・若松町北部自治会の協力で、サロン案内チラシを回覧板で回していただき、募集を行った。 ・チラシを見ての申込による参加者が少なかったため、若松町北部自治会のサークルに声をかけていただき、実施できた。	A	
	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	27年度は前年度実施した脳トレ講座を拡充して実施したい。	・各町内自治会の理解、協力により、回覧板にてチラシ(講座開催案内及び申込方法等を掲載)を配布し、参加者を募集した。 ・地区部会役員、スタッフも参加の呼びかけやチラシの周知を積極的に行い、今年度2回(11月・2月)の開催ができた。 ・参加者の声には「継続的に実施してほしい」との要望が多数ありました。	B	
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4	若松地区部会の会員、構成団体等との話し合いの場を持つ。 27年度は2回、6月と1月頃に開催する。	・千葉市あんしんケアセンター桜木、社協若葉区事務所、区高齢障害支援課の出席をいただき、開催した。 ・各町内自治会の会長、民生委員・児童委員、福祉活動推進員並びに地区部会のメンバーが総会以外での話し合いを持つことを開催目的としたが、どこが主体となるべきかが分からない。	B	

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成状況	今後の課題
加曽利地区部会エリア	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	9	27年度:きっかけづくり―具体的な仕事の内容の吟味と提示、加えてその広報活動をどのように行うかを明らかにする。	・次の具体的な取り組みに参加するメンバーを発掘した。 ○秀眉園の「絵手紙教室」無償ボランティア活動 ○寿クラブへの「イベント出演」無償ボランティア活動 ○「加曽利助け合いの会」有償ボランティア活動 ○社協スタッフの募集――内容としては、①事業企画、②各種事業のサポーター(福祉活動推進員)、③簡単経理事務 等がある。 ・各資料(活動内容説明と募集内容)の作成とPR方法の検討と実行:現社協スタッフによる定例会の中で担当を決めた。	A	活動の中核となれる人材の発掘の取組みの中、社協若葉事務所の紹介で、ことぶき大学、植草学園大学、桜林高校に無償ボランティア活動及びポスターによりメンバー発掘の掲示のお願いに行った。今後はどのように具体化できるかが検討である。
【人口・世帯数】 6,586人、3,074世帯				・定例会の内容を次のように設定した。 ○会合ごと具体的な事例発表と討議(身近に発生した問題と解決方法、誰がかかわったのか、またこうあってほしいことを明確にする) ○有力情報の提供、例えばセブンイレブン・コープの個別配達システム。公的機関・インターネットからの情報提供等。 ○メインテーマの設定とそれにまつわる情報入手。26年度では、認知症家族の会役員の講演を聞いている。 ・効果ある「地域ケア会議」の仕組みづくりを考えていきたい。特に第3次地域福祉計画に準拠(4項目)した内容。		
【町内自治会数】 7町内自治会				「地域ケア会議」の名のもとに26年度より年数回の会合を持ち既にスタートしている。活動団体は、当地区の自治会・民生委員・ケアマネ・障害施設・あんしんケアセンター・社協のメンバーで身近で具体的な問題の討議と解決にポイントを置いている。 27年度:26年に引き続き、具体的な案件提示と問題討議。加えて全体の仕組みづくり・進め方を検討しまとめる。		
【高齢化率】 30.1%				「向こう三軒両隣・防災・助け合いマップ」(数軒～十軒程度の単位の相互連絡網)の各自治会への提案と一部マップ作りを行う。 なお、本件は、防災活動のみならず“高齢者の見守り活動”にも直接関連するものであり、両者を関連づけて行うものである。 27年度:提案内容の企画検討をもって自治会との話し合いを開始する。モデル地区(一部の自治会で)を設定し、試行の機会を持ち、内容の詰めを行う。		
【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていない、1町しか含まれていない。 古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。	⑭ 防災・減災活動の実施	7	“向こう三軒両隣・防災・助け合いマップ”(数軒～十軒程度の単位の相互連絡網)の各自治会への提案と一部マップ作りを行う。 なお、本件は、防災活動のみならず“高齢者の見守り活動”にも直接関連するものであり、両者を関連づけて行うものである。 27年度:提案内容の企画検討をもって自治会との話し合いを開始する。モデル地区(一部の自治会で)を設定し、試行の機会を持ち、内容の詰めを行う。	○「向こう三軒両隣・防災・助け合いマップ」の考え方の整理と具体的な方法に関する検討を行なった。 ○各自治会へ内容説明を行い、意見交換し、骨格を決めた。 ○モデル地区を選定し、当該自治会と具体的に詰める作業を行なった。 ○この中で社協が以降の展開において行わなければならないこと、あるいは、バックアップする事項を抽出した。 注)本来、本テーマについては、自治会単位に行うことが必要なことである。しかし他地域で行われている情報の伝達、当初の作成段階の機能を集中化することが効果的であることを考慮し社協がお手伝いした。	S	活動の中核となれる人材の発掘の取組みの中、社協若葉事務所の紹介で、ことぶき大学、植草学園大学、桜林高校に無償ボランティア活動及びポスターによりメンバー発掘の掲示のお願いに行った。今後はどのように具体化できるかが検討である。
	⑮ 福祉のこころを育む活動の実施	8	福祉体験学習プログラムを学校と種々の地域の団体が共同して開発し、展開することを考えたい。 ・初年度は、学校、PTA及び育成委員会、社協を含むケア会議メンバーによる会議を持ちその方向づけ、内容の吟味を行う。小学校と中学校では内容進め方が根本的に異なるので、当面は中学校に特化して進めることとしたい。	○まず、地域ケア会議の中で①目的、②具体的な取組内容 に関し議論し、進め方を議論した。 具体的には、小地域活動の担い手(サロン、見守り・助け合い活動)、福祉教育イベント・講座・研修・懇談会の企画等を考えた。 ○1年かけて、参加メンバーがすべて納得できる体制づくりを行なった。数回の打ち合わせを行なった。 ○本年度中に、本取組の方向付けを明確にし、次年度につなげる。	S	

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
都賀地区部会エリア	⑩ 助けあい活動の仕組みづくり	4	全住民参加型のご近所福祉活動による「助け合い見守り合う地域生活」を地区部会、自治会、民生委員などが連携・協力して推進する。広報活動、活動説明会を通して推進する。この活動推進のための「活動対策委員会」(仮称)を別に設けて具現化の研究と浸透に取り組む。広報紙は年に2回発行する。この活動により住民と自治会、民生委員、地区部会との繋がりを深めていく一助とする。(自治会加入の促進化に繋げていく。)	・地域生活における「安心度」は「身近な生活仲間とのつながり」の良し悪しにより大きく左右される。現代社会は個々人にこの共通理念の温度差がある。「ご近助だより」第1号は、地域福祉の主体は「住民」であり、住民相互の心のつながりづくりこそ福祉活動のベースであるとの趣を掲載した。 ・全家庭への配布を目論んだが、協力体制が整わず、自治会回覧による配付となったことは、殊に残念であった。	A	
【人口・世帯数】 13,643人、6,922世帯			全住民参加型のご近所福祉活動による「助け合い見守り合う地域生活」を地区部会、自治会、民生委員などが連携・協力して推進する。広報活動、活動説明会を通して推進する。この活動推進のための「活動対策委員会」(仮称)を別に設けて具現化の研究と浸透に取り組む。広報紙は年に2回発行する。この活動により住民と自治会、民生委員、地区部会との繋がりを深めていく一助とする。(自治会加入の促進化に繋げていく。)	・地域生活における「安心度」は「身近な生活仲間とのつながり」の良し悪しにより大きく左右される。現代社会は個々人にこの共通理念の温度差がある。「ご近助だより」第1号は、地域福祉の主体は「住民」であり、住民相互の心のつながりづくりこそ福祉活動のベースであるとの趣を掲載した。 ・全家庭への配布を目論んだが、協力体制が整わず、自治会回覧による配付となったことは、殊に残念であった。		
【町内自治会数】 10町内自治会			①「地域ケア会議」を開催し、あんしんケアセンター、自治会、地区部会、民生委員、ボランティア組織など、それぞれの役割と連携について協議する。 ②「ご近所福祉」活動と「地域ケア」活動の相関と効果的運用や進め方について協議し、地域課題を共有する。 ③地域内で活動するボランティア組織と地区部会(委員会・対策委員会)との連携について意見交換と協議を行い、相互の活動に役立てる。	・ケア会議の重要性に鑑み、年2回の開催を予定していたが未達となった。 ・これを受けて、一部の自治会では支え合いの活動の一環として「市あんしんケアセンターみつわ台」との連携を組み入れている。他の自治会においても、こうした連携のもと、活動が広がることを推奨していきたい。 ・住民との連携協力を進化させていくため、年間1～2回の開催を予定しており、第2回目の開催を28年6月に開催すべく準備している。		
【高齢化率】 27.9%	⑪ 見守り活動の仕組みづくり	5			A	講座構成は、福祉の現場で活動する関係者にとって誠に有意義であったが、これら講座の参考事例などを各現場でどう生かしていくか…、地区部会として研修の趣旨・内容を、地区部会活動にどう反映させていくかが大切である。
【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.6%と、限界集落に近い状況まで高齢化が進んでいる。	⑫ 活動団体同士の連携・交流	4			B	
	⑳ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	地域福祉の推進にかかわる講座・講演などを年間に3回前後開催し、身近な福祉課題・問題への理解を深め合うことで、部会レベルまた自治会、住民レベルで、活動の活性化を期する。	9月 5日 地域を取り巻く福祉課題について(淑徳大学 小倉氏) 9月10日 地域での支え合い活動の事例紹介(事例紹介＝いずみ台ローズタウン自治会、千城台東南地区部会・金親地区部会) 18日「見守り活動の進め方」「たすけあい活動の進め方」(社協・若葉区事務所) この講座構成は、福祉の現場で活動する関係者にとって誠に有意義であった。が、これら講座の参考事例などを各現場でどう生かしていくか…、地区部会として研修の趣旨・内容を、地区部会活動にどう反映させていくかが大切であると反省している。	A	
結・みつわ台地区部会エリア	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	1	これまで、公民館で「福祉のつどい」を1回/年、開催しているが、出席者が「参加し、交流する」ことによって、最低、何か一つ習得し(みにつけ)て帰れるよう、内容の充実を図る。 「回数」については、地区部会の体制が整うまで、現状維持とする。	・計画どおりに開催することができた。 ・特には、あんしんケアセンターみつわ台の協力のもと、実際の福祉器具を使つての「家庭でできる介助の技術」の指導は、「大変勉強、参考になった」と好評であった。 ①「福祉のつどい」開催にあたっては、日常生活に役立つ企画を…との思いから、千葉市消費生活センターの「暮らしの巡回講座」、千葉市あんしんケアセンターみつわ台の協力による「家庭でできる介助の実技」の2本立てで実施した。 ②いずれも好評を博し、このような「つどい」をまた企画してほしいとの要望が多く寄せられた。 ③地区部会活動も徐々にではあるが、エリア内に浸透してきているように感じられた。	A	
【人口・世帯数】 24,444人、10,691世帯				・無理なくほどほどのペースでの「お散歩くらぶ」を継続してきている。 ・メンバーは7～8名程度でやや固定化しているが、参加者は皆楽しみに「お散歩」している。 ・スポーツ振興会へ働きかけをするも、振興会以外の企画事業に参加することには積極的ではない面がある。 ・自治会の「防犯パトロール」も、各自治会とも参加者が減少傾向にあり、課題となっている。 ・今後とも無理をせず、「継続は力なり」を信じて、力まず歩き続けることとしたい。		
【町内自治会数】 37町内自治会				①会議の方向性を「支え合いの街、見守りの街づくり」と位置付けた。」→「回数より中身」を重視。 ②40の自治会、町内自治会等をグルーピング。 →グルーピングについて、次回以降はさらに詳細に検討する！ ③グルーピングした中から「会議場所」が確保できるグループを優先的に選定した。 ④“出席者の気づきと共感”を得る内容にするには？ →地区部会とあんしんケアセンターで終始意識合わせを行っている。 ⑤エリア内で既に活動中の「みつわ台ハイツふれあい隊」、民児協等、関係機関のご助力とご協力をいただいた。		
【高齢化率】 24.1%	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	2	・地区部会が、町内自治会やスポーツ振興会と協力して、「ふれあい・散歩パトクラブ」を実施する。 ・これまで実施してきた「点検パトロール」を、2回/月のペースを維持しつつ、地域住民参加型のパトへと脱皮すべく、協力団体等の拡大を目指す。		A	自治会の「防犯パトロール」も、各自治会とも参加者が減少傾向にあり、課題となっている
【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁(殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部)もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。	⑫ ⑫活動団体同士の連携・交流	4	・地区部会と千葉市あんしんケアセンターみつわ台が連携し、定期的に地域の関係団体等が解決に向けて話し合う場である「地域ケア会議」を設置する。 ・地域で助け合い活動や見守り活動を実施する団体同士の情報交換や意見交換が容易にできる「場」をつくる。		B	
	⑬ 相談窓口の設置や出張相談の実施	3	・地域住民が、気軽に且つ安心して利用できる「介護等についてのよろず相談会」を実施する体制をつくると同時に、あらゆる場を通じて、地域への「啓蒙」活動を行う。 ・このため、活動主体の各団体が一致して協力できるよう、地区部会から継続して働きかけていく。「施策の方向性」についての意識を醸成する。(実績件数で管理)。	①地域住民が気軽に安心して相談できる「場」づくりと考え、取り組むこととしたが、「個人」の相談案件は地区部会が管理することに馴染まないため、活動を方向転換した。 ②あんしんケアセンターみつわ台には、地区部会主催の講習会や福祉のつどいでの中心的な役割を演じてもらうなど、意識的にチラシ等を活用した地域へのPRを積極的に行い、いつでも安心して相談できる「あんしんケアセンターみつわ台」がここにありますよ…の啓蒙活動に注力した。	C	

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成状況	今後の課題
千城小地区部会エリア	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	気軽に過ごせる居場所として、高齢者いきいき・サロンの開催を重点として活動する。 27年度 エリア内の10自治会で、それぞれに高齢者いきいき・サロン等を最低1回試行する。	・地区部会理事会にて、27年度の重点取組活動として、高齢者いきいきサロン開催の確認と自治会への実施依頼を行った。 ・既存活動のある2自治会が、既存活動をいきいきサロンと位置づけるべく実施環境の整備を行った。 ・1自治会で、6回のサロン実施を計画するも、2回の実施となった。	S	防災・減災活動の実施の取組みの中で、28年度は実施主体が連協から社協にうつることに伴い、内容のマンネリ化を防ぐ必要がある。
【人口・世帯数】 2,828人、1,380世帯						
【町内自治会数】 10町内自治会						
【高齢化率】 42.5%	⑬ 防犯活動の実施	6	27年度 防犯に関するプロジェクトチームを発足させ、防犯活動の実施方法について検討する。	・10月24日(土)、先進活動地区である白井地区部会の活動事例を学ぶ会を開催した。 ・上記の会を実施したが、防犯に関するプロジェクトチームを発足するには至らなかった。	C	
【地域の特徴】 エリア内には1町しか含まれていなく、小学校は設置されているが、児童数は区内で2番目に少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。						
	⑭ 防災・減災活動の実施	7	27年度 従来の活動の現状について検討し、参加者数の増加をめざす改善策について、検討する。	・6月7日 防災訓練を実施した。起震車による東日本大震災の揺れを体験、火災時に煙から逃れる訓練、消火器使用訓練、三角巾の使用方法、非常に役立つロープの結び方等について、実習を通し学んだ。 ・6月14日 避難所運営訓練(HUG)を実施した。避難所運営について、実際にボランティアとして関わった方から、運営のポイントを講話の形で聴いた後にHUG訓練を実施した。	S	

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

主 な 成 果	・各地区で地区部会が中心となって、見守り活動や支え合い活動について協議する機会が増加した。 ・地区部会が自治会等と連携して、サロン活動など地域住民同士の交流機会の創出に努めることができた。
今 後 の 課 題	・見守りや支え合い活動を展開していくためには、町内自治会の協力が必要になってくるため、その活動の意義や方法を理解してもらえるよう、取組みを継続していく必要がある。

◆取組みテーマ別達成状況				
【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 A:概ね目標を達成した。(8～10割) B:一部目標を達成した。(5～7割) C:大きく目標を下回った。(～4割)				
取組みテーマ	重点取組項目数	主な取組み実績	達成状況	
1 交流の機会創出と社会参加の促進	2	・おゆみ野地区部会が、あんしんケアセンターと連携し、散歩クラブを4回(191名)実施した。(会場内ではあんしんケアセンター職員による相談も実施できた。) ・椎名地区部会が、椎名小学校と連携し、ふれ食や、車いす体験講座、障害者との交流会など、参加を呼びかけた。	S	0
			A	2
			B	0
			C	0
2 健康づくり	1	・おゆみ野地区部会が、保健師や看護師の協力を得て、散歩を通じての交流「ふれあい散歩」を実施した。(実施においては、問診票や血圧測定、水分補充等、体調管理に留意して、行うことができた。)	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
3 相談体制と情報提供の充実	1	・おゆみ野地区部会が、「ロコミ」や地域内のミニコミ誌等を活用し、PRに努めた。	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化	3	・椎名地区では、古市場団地お元氣確認委員会活動を充実させ、協力者の講習会の開催や、若い人の参加と話し合い活動を促進した。 ・誉田地区では、鎌取町内会にて見守り活動を実施した。また、辺田町内会の見守り活動が新たに立ち上がった。 ・土気地区では、会合や広報紙等において、見守り活動を実施している2自治会を紹介し、その必要性の理解と取組みへの啓発に努めた。	S	0
			A	1
			B	2
			C	0
5 見守り体制の構築	3	・各地区部会で町内自治会への働きかけを行い、誉田地区部会では見守り活動を推進していくための委員会設置に向けてを検討を開始した。	S	0
			A	1
			B	2
			C	0
6 防犯に対する取組み	—	—	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
7 防災に対する取組み	—	—	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
8 福祉教育・啓発	1	・椎名地区で椎名小学校と連携し、①食育支援事業、②地域の伝承文化の継承、③福祉体験講座、④国語の学習支援を実施した。	S	0
			A	1
			B	0
			C	0
9 人材確保とボランティア活動の促進	—	—	S	0
			A	0
			B	0
			C	0
合 計	11		S	0
			A	7
			B	4
			C	0

<参考>

◆緑区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年6月20日(土)	・広報部会委員の選任について
			・緑区支え合いのまち推進計画について
	第2回	平成27年9月26日(土)	・各地区部会エリアの進捗状況について
			・広報誌「みどりのきずな第26号」の承認について
	第3回	平成27年12月19日(土)	・各地区部会エリアの進捗状況について
			・広報誌「みどりのきずな第27号」の承認について
	第4回	平成28年3月19日(土)	・各地区部会エリアの進捗状況について
			・広報誌「みどりのきずな第28号」の承認について
平成28年度	第1回	平成28年6月18日(土)	・広報部会委員の選任について
			・緑区支え合いのまち推進計画について
			・今年度の協議会開催日程について
			・小委員会のご案内

◆緑区内の地区部会エリア数 … 4

No.	地区部会名	活動対象区域
1	誉田地区部会	誉田町、鎌取町、辺田町、平山町の一部、大膳野町、高田町、平川町、おゆみ野6丁目の一部、東山科町
2	椎名地区部会	大金沢町、椎名崎町、小金沢町、茂呂町、中西町、古市場町、落井町、富岡町、刈田子町
3	土気地区部会	土気町、小食土町、小山町、大椎町、板倉町、大木戸町、下大和田町、上大和田町、高津戸町、大高町、越智町、あすみが丘、大野台、あすみが丘東
4	おゆみ野地区部会	おゆみ野有吉、おゆみ野1～5丁目、おゆみ野6丁目の一部、おゆみ野中央、おゆみ野南

◆緑区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年6月20日(土)	・広報部会委員の選任について
			・緑区支え合いのまち推進計画について
	第2回	平成27年9月26日(土)	・各地区部会エリアの進捗状況について
			・広報誌「みどりのきずな第26号」の承認について
	第3回	平成27年12月19日(土)	・各地区部会エリアの進捗状況について
			・広報誌「みどりのきずな第27号」の承認について
	第4回	平成28年3月19日(土)	・各地区部会エリアの進捗状況について
			・広報誌「みどりのきずな第28号」の承認について
平成28年度	第1回	平成28年6月18日(土)	・広報部会委員の選任について
			・緑区支え合いのまち推進計画について
			・今年度の協議会開催日程について
			・小委員会のご案内

◆緑区内の地区部会エリア数 … 4

No.	地区部会名	活動対象区域
1	誉田地区部会	誉田町、鎌取町、辺田町、平山町の一部、大膳野町、高田町、平川町、 おゆみ野6丁目の一部、東山科町
2	椎名地区部会	大金沢町、椎名崎町、小金沢町、茂呂町、中西町、古市場町、落井町、 富岡町、刈田子町
3	土気地区部会	土気町、小食土町、小山町、大椎町、板倉町、大木戸町、下大和田町、 上大和田町、高津戸町、大高町、越智町、あすみが丘、大野台、 あすみが丘東
4	おゆみ野地区部会	おゆみ野有吉、おゆみ野1～5丁目、おゆみ野6丁目の一部、 おゆみ野中央、おゆみ野南

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

- 【取組みテーマ】
- 1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

- 【達成状況の目安】
- S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
椎名地区部会エリア	⑪ 地域と学校との交流	1・8	椎名小学校と連携した事業を展開する。 ①食育支援 ②伝承文化「羯鼓舞」の発表会 ③福祉の出前講座を開催 ④学力アップのための支援と交流	①稲作体験から太巻き寿司づくり、ふれ食への参加を実施した。 ②地域の方へ子ども達の「羯鼓舞」を2回実施。 ③車いす体験と視覚障害者との交流を実施 ④漢字パワーアップ授業を実施し、地域の方が授業支援	A	町内自治会など様々な地域内の 会議で見守り活動を理解してもらう ためのPRをしていかなければなら ない。
【人口・世帯数】 4,864人・2,115世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 23.4% 【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団 地、新興住宅地が混在する町。全体 の高齢化率は23.4%。局地的には30%を 超えて高齢化が急速に進んでいる地域 もある			地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対 して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地 地区の拡充に努める。また若い世代への理解を進める。	3町内自治会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、声かけなど による見守り活動に取り組んだが、残りの活動未実施地区を組織化 することはできなかった。児童と見守りボランティアの懇談会は2 回実施した。	B	
土気地区部会エリア	③⑧ 見守り活動の推進	4・5	地区部会が町内自治会などに対して見守り活動への理解促進 を図る。また見守り対象者を減らしていくためにサロン活動を充実 させていく。	1町内自治会で見守り活動について地区部会が作成したプラン を提案し検討段階に入ったが、組織の立ち上げまで至らず継続し て検討していくことになった。	B	町内自治会など様々な地域内の 会議で見守り活動を理解してもらう ためのPRをしていかなければなら ない。
【人口・世帯数】 45,477人・18,547世帯 【町内自治会数】 46町内自治会 【高齢化率】 25.2% 【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢 化の進み方も地域にばらつきがある。で きる限り新旧住民が協調できる事業の 進め方をしている。			地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対 して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地 地区の拡充に努める。	1町内自治会で独居高齢者の見守り活動が組織として立ち上 がった。またさらに見守り活動を推進するための地区部会内 に見守り活動推進委員会を設置し町内自治会の意識啓発をしていくこと になった。	A	町内自治会など様々な地域内の 会議で見守り活動を理解してもらう ためのPRをしていかなければなら ない。
誉田地区部会エリア	③⑧ 見守り活動の推進	4・5	地区部会が、町内自治会と協力し、ひとり暮らし高齢者等に対 して、日常的な見守り活動を行い、未実施地区には働きかけ実地 地区の拡充に努める。	1町内自治会で独居高齢者の見守り活動が組織として立ち上 がった。またさらに見守り活動を推進するための地区部会内 に見守り活動推進委員会を設置し町内自治会の意識啓発をしていくこと になった。	A	町内自治会など様々な地域内の 会議で見守り活動を理解してもらう ためのPRをしていかなければなら ない。
【人口・世帯数】 28,434人・12,602世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 27.2% 【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部 は農村地域のため人口も少ないが誉田 駅近くは宅地開発が進み若い世代も多 い。						

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

【取り組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取り組み
7 防災に対する取り組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
おゆみ野地区部会エリア	④ 高齢者が集う場の開設・拡充	1・2・3	ふれあい散歩クラブを実施し高齢者の健康保持し、住民同士が集う場の充実に努める。また相談の場としても機能するようにしていく。	地区部会が、あんしんケアセンターと連携し、散歩クラブをを4回(191名)実施した。会場内ではあんしんケアセンター職員による相談も実施できた。	A	若い世代や本来参加して欲しい引きこもりがちな高齢者の参加を促すためのPR方法を検討していく。
【人口・世帯数】						
48,654人・18,568世帯						
【町内自治会数】						
63町内自治会						
【高齢化率】						
11.6%						
【地域の特徴】						
街びらきして30年。まだ住宅開発が続いている地区だが、30年前に開発された地域は高齢化が目立ってきている。見守り活動等は一部自治会が取り組んでいる						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成27年度)

主 な 成 果	・「認知症サポーター養成講座」や「終末期医療講演会」など、他機関と連携・協働した取り組みが進んだ。 ・地域資源を活用した居場所、交流の場づくりが進んだ。
今 後 の 課 題	・各団体、各活動において、担い手不足が深刻である。期待された団塊の世代の参加も低調なため、様々な機会を通じて担い手の確保を図る必要がある。

◆取組みテーマ別達成状況					【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 A:概ね目標を達成した。(8～10割) B:一部目標を達成した。(5～7割) C:大きく目標を下回った。(～4割)
取組みテーマ	重点取組 項目数	主な取組み実績	達成 状況		
1 交流の機会創出と 社会参加の促進	12	・地域カフェの設置(1地区) ・活動拠点の確保(3地区) ・あいさつ運動PRチラシの配布(1地区)	S	1	
			A	5	
			B	6	
			C	0	
2 健康づくり	—	—	S	0	
			A	0	
			B	0	
			C	0	
3 相談体制と情報提供 の充実	1	・未着手(1地区)	S	0	
			A	0	
			B	0	
			C	1	
4 要支援者を支える仕組 みづくりと地域団体の活 性化	4	・医療介護研究会の開催(1地区) ・地域運営委員会の設立(2地区) ・たすけあい活動の利用者増(1地区)	S	0	
			A	3	
			B	1	
			C	0	
5 見守り体制の構築	7	・認知症サポーター養成講座の開催(3地区) ・あんしんカードの配布(2地区) ・終末期医療講演会の開催(4地区) ・見守り活動実施に向けたアンケートの実施(1地区)	S	1	
			A	4	
			B	2	
			C	0	
6 防犯に対する取組み	2	・危険箇所のパトロール(1地区)	S	0	
			A	0	
			B	2	
			C	0	
7 防災に対する取組み	2	・防災に関するイベントへの協力(1地区)	S	0	
			A	1	
			B	1	
			C	0	
8 福祉教育・啓発	1	・中学生を対象としたEX講座を開催(1地区)	S	0	
			A	0	
			B	1	
			C	0	
9 人材確保とボランティア 活動の促進	2	・ボランティア名簿の作成(1地区) ・近隣等の大学より学生ボランティアの協力を得た(1地区)	S	0	
			A	0	
			B	0	
			C	2	
合 計	31		S	2	
			A	13	
			B	13	
			C	3	

<参考>

◆美浜区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年6月24日(水)	・各地区部会エリアの重点取組項目について
			・介護予防事業「いきいき体操」のモデル実施について
			・美浜区認知症キッズサポーター養成について
	第2回	平成27年11月12日(木)	・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について
			・各地区部会エリアの進捗状況について
			・生活支援コーディネーターについて
平成28年度	第3回	平成28年3月4日(金)	・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について
			・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について

◆美浜区内の地区部会エリア数 … 8

No.	地区部会名	活動対象区域
1	稲毛海岸地区部会	稲毛海岸
2	幸町2丁目地区部会	幸町2丁目、新港の一部
3	幸町1丁目地区部会	幸町1丁目、新港の一部
4	高洲・高浜地区部会	高洲、高浜
5	真砂地区部会	真砂
6	磯辺地区部会	磯辺
7	幕張西地区部会	幕張西、浜田
8	打瀬地区部会	打瀬

◆美浜区支え合いのまち推進協議会の開催状況

開催日			主な議題
平成27年度	第1回	平成27年6月24日(水)	・各地区部会エリアの重点取組項目について
			・介護予防事業「いきいき体操」のモデル実施について
			・美浜区認知症キッズサポーター養成について
	第2回	平成27年11月12日(木)	・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について
			・各地区部会エリアの進捗状況について
			・生活支援コーディネーターについて
	第3回	平成28年3月4日(金)	・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について
平成28年度	第1回	平成28年6月25日(土)	・地区部会エリアの重点取組項目の進捗状況について

◆美浜区内の地区部会エリア数 … 8

No.	地区部会名	活動対象区域
1	稲毛海岸地区部会	稲毛海岸
2	幸町2丁目地区部会	幸町2丁目、新港の一部
3	幸町1丁目地区部会	幸町1丁目、新港の一部
4	高洲・高浜地区部会	高洲、高浜
5	真砂地区部会	真砂
6	磯辺地区部会	磯辺
7	幕張西地区部会	幕張西、浜田
8	打瀬地区部会	打瀬

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
稲毛海岸地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・稲毛団地自治会で取り組まれている「見守りネットワーク」(安心カード、ゴミ出し支援、見守り活動、たすけあい活動)を他地域にも構築する。	・地区部会エリア内のマンションや団地において、町内会費の徴収等で各戸を訪問する際に自然なかたちで見守りネットワークの構築されて いる状況が確認できた。 ・3月にあんしんカードを地区部会エリア全戸に配布した。	A	・各自治会等の状況に合わせながら、担い手の確保を含めて、必要な事業を構築していく必要がある。
【人口・世帯数】						
8,600人 3,589世帯						
【町内自治会数】						
14町内自治会						
【高齢化率】						
16.9%						
【地域の特徴】						
地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。						
幸町2丁目地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・「認知症サポーター養成講座」の開催	・千葉市あんしんケアセンター幸町と連携し「認知症サポーター養成講座」を11月に開催した。(参加者41人)	A	・地域住民を対象に地域カフェを活用した「認知症サポーター養成講座」の開催について検討する必要がある。 ・次世代の担い手確保に向けて中学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」の開催について検討する必要がある。 ・拠点確保について、引き続き千葉市等と協議を進める必要がある。
【人口・世帯数】						
12,958人 6,499世帯	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・活動拠点の確保	・千葉市との交渉により、「幸町児童老人センター」の使用が2年延期された。 ・地域内の高齢者福祉施設内、地域交流スペースに地域カフェオープンに向け準備を始めた(4月4日開所)	A	
【町内自治会数】						
13町内自治会						
【高齢化率】						
26.8%						
【地域の特徴】						
東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
幸町一丁目地区部会エリア	⑫ 空き店舗フリースペースの確保と管理運営体制の検討	1	・地域カフェ(コミュニティカフェ)の設置・運営	・地域運営委員会が美浜区地域活性化支援事業の補助金により、11月に「幸町1丁目ふれあい交流館」を開設。地域カフェ(ふれあいサロン)、COCO(小中学生の放課後の居場所づくり)、ふれあいいきいきサロン(ひだまり)等、地域の交流の場として活用されている。	S	・「幸町1丁目ふれあい交流館」を活用した、地域課題に合致した事業を検討する必要がある。 ・地域包括ケアシステム構築について検討を進める必要がある。
【人口・世帯数】		4	・研究会の開催(ニーズの発掘・検討・担い手の確保) ・地域包括ケアシステム構築に向けた3分科会設立	・千葉市あんしんケアセンター幸町の協力により、4月に医療介護研究会を開催した。	B	
8,977人 3,958世帯	⑬ 地域での助け合い活動の推進					
【町内自治会数】						
18町内自治会						
【高齢化率】						
22.7%						
【地域の特徴】						
東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。						
高洲・高浜地区部会エリア	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	1	・異世代交流の拡大	・「こどもフェスタ」(年2回 7・2月)、「ネイチャーゲーム」(年1回 10月)を開催。地域の高齢者に参加を呼びかけ昔遊び等を通して、児童と高齢者の交流が図れた。	B	・様々な機会を活用し、イベントへの参加者を広く募る必要がある。 ・次年度も継続して、「認知症サポーター養成講座」、「地域資源を活用した高齢者向け講座」を開催していく必要がある。 ・地域資源の活用について、引き続き各自治会等と連携・調整する必要がある。
【人口・世帯数】	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・認知症サポーター養成講座の開催 ・地域資源を活用した高齢者向け講座の開催	・千葉市あんしんケアセンター高洲と連携し、認知症サポーター養成講座を10月に開催した。(参加者55人) ・千葉大学医学部附属病院地域医療連携部、高洲コミュニティセンターと連携し、「終末期医療講演会」を6月・8月に開催した。(延べ132人参加)	S	
40,097人 18,856世帯	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・サロン活動の充実 ・拠点の確保	・町内自治会等への働きかけにより、来年度、2か所増設予定。	B	
【町内自治会数】						
26町内自治会						
【高齢化率】						
26.4%						
【地域の特徴】						
区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
真砂地区部会エリア	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	1	・「手づくり公園まさご」を活用した交流の場の検討。 ・ラジオ体操やウォーキング活動のPR。	・手づくり公園まさごにて、種まき会、手づくり公園フェスタ等イベントが開催され、住民同士の交流が図れた。また、近隣小学校、保育園、福祉施設等、各団体との交流の場となっている。	A	・引きこもりがちな高齢者を情報提供しながら様々なイベントに参加させる必要がある。 ・増加が予想される依頼に対応するため、様々な方法により協力員の確保を図る必要がある。 ・ささえあいまさごでは対応できないケースも増えてきているため、民間事業所等の専門機関や他の社会資源を把握、活用していく必要がある。
【人口・世帯数】 24,966人、11,686世帯	② 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	4	・地域運営委員会設置に向けた検討。	・平成28年3月6日地域運営委員会が設立された。	A	
【町内自治会数】 31町内自治会	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・見守り体制の充実を図る。 ・認知症の予防や対応、成年後見制度等福祉課題に関する勉強会の開催。	・ささえあいまさご利用者を対象に、さりげない見守り活動を行う体制は整っている。 ・千葉大学医学部付属病院地域医療部と連携し、「終末期医療講演会」を1月に開催した。	B	
【高齢化率】 28.7%	④ 防犯情報の共有・身近な防犯活動の実施	6	・防犯パトロールの担い手確保を図る。 ・セーフティーウォッチャーの担い手確保を図る。 ・子ども110番の家の担い手確保を図る。	・連協・学校・青少年育成委員会等が連携し、事故・犯罪等の防止活動に努めている。	B	
【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホール の複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	⑦ 誰もが身近に得ることができ、わかりやすい情報の発信	3	・浸透しやすい情報提供方法の検討。	未着手	C	
	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・ふれあいいきいきサロンや茶話会等の充実。	・真砂西小学校で開催していたいきいきサロンを美浜保健福祉センター大会議室へ会場変更をしたところ、参加者が増加した。	B	
	⑭ 子育て支援活動の推進	1	・子育て支援団体及び活動の把握、情報提供。 ・ふれあい子育てサロンの充実。	・「子育てみはマップ」を活用し情報提供を行った。	B	
	⑯ 地域での助け合い活動の推進	4	・新たな協力員の確保。 ・協力員向け講習会の充実。	・依頼件数は460件で昨年比120件増だった。 ・新規に協力員を8人確保した。	A	
磯辺地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・福祉協力員ネットワーク活動の進化と拡充を図る。 (新たな対象者の把握、新たな協力員の確保) ・ゴミ出し支援事業の検討及び立ち上げ。	・見守り対象者及び協力員の年2回(春、秋)の募集方法を変更し、秋は募集チラシを作成し自治会の協力を得て掲示板等に掲示や回覧を行ったが、平成28年3月末現在、見守り活動希望者67人(前年比－4人)、協力員187人(前年比－6人)であった。また、日常的な困りごとをサポートする支えあい活動について、検討を開始した。	B	・福祉協力員ネットワークの協力員、見守り希望者について、地域のあらゆる資源や機会を活用し掘り起こす必要がある。 ・地域ルームでは様々な団体が活動していることから、未設置地区の自治会・集合住宅の集会所等でのサロン、茶話会等の設置について、担い手の確保、他団体との連携も含めて検討する必要がある。
【人口・世帯数】 17,187人、7,155世帯	⑤ 地域ぐるみの防災訓練、避難誘導の実施	7	・災害に対するより実践的な講演会を開催し、防災意識を高める。 ・地域ぐるみの防災訓練の実施。	・小中学校の統廃合により、避難所・避難所運営委員会の再編成が最優先となっていたが、7か所の避難所運営委員会が設置された。また、横の繋がりを持つため避難所運営委員会の連絡会開催も予定されている。	－	
【町内自治会数】 27町内自治会	⑥ 災害発生時の対応マニュアル整備	7	・戸建てを含む自治会の災害発生時の対応マニュアルを作成する。 ・中高層住宅を含む自治会の災害発生時の対応マニュアルを普及させる。	・小中学校の統廃合により、避難所・避難所運営委員会の再編成が最優先となっていたが、各地区でマニュアル作成の検討が進んでいる。	－	
【高齢化率】 35.8%	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・磯辺地域ルームでのサロン開設。 ・茶話会未設置地区での開設。	・磯辺地域ルーム設置後、地域住民の交流の場、地域活動の拠点として様々なサークルや事業に利用されている。地域運営委員会が設置され磯辺地域ルームの管理運営も担うこととなり、利用状況を確認しながら常設サロン等の地域福祉の拠点としての事業展開も検討が進んでいる。また、未設置地区で2か所サロンが開設された。	A	
【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前までで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題
幕張西地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・見守り活動等に関するアンケート調査の実施。	・見守り希望者及び協力員を把握するため、見守り活動準備委員会が平成27年10～11月に各町内自治会（15自治会中14自治会）の協力でアンケート調査を実施し（未実施1自治会も実施予定）、回答率は29%であった。見守り協力者及び見守り希望者が多く存在することを確認できた。	A	・各町内自治会ごとに各地域状況に応じた見守り活動の体制づくりを検討する必要がある。 ・茶話会等未設置地区で設置に向けた検討を進める必要がある。また、アンケート結果に基づき、地域課題について分析する必要がある。
【人口・世帯数】						
12,193人、4,729世帯						
【町内自治会数】						
15町内自治会						
【高齢化率】						
18.4%						
【地域の特徴】						
区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（平成27年度）

【取組みテーマ】
1 交流の機会創出と社会参加 2 健康づくり 3 相談体制と情報提供の充実
4 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化 5 見守り体制の構築 6 防犯に対する取組み
7 防災に対する取組み 8 福祉教育・啓発 9 人材確保とボランティア活動の促進

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	27年度の目標	27年度の実績	達成 状況	今後の課題	
打瀬地区部会エリア	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	1	・あいさつ運動のPR	・子ども円卓会議と連携して取り組んだ。チラシを作成して街区掲示板等に掲示し、学校でも推進のために児童に声をかけをした。	B	・自治会によって地域活動への参画について、大きな温度差があるため、地域活動の連携・広がりが難しい状況にある。引き続き地域活動の必要性、参画について理解促進を図る必要がある。 ・児童・生徒期から福祉やボランティア活動に関する意識を高めるため、地域が協力した福祉教育をさらに推進する必要がある。 ・地域活動を継続するためには、担い手の確保は重要。現在のボランティアの次の世代である団塊の世代や、女性のボランティアの確保に向けた具体的な方法を検討する必要がある。	
【人口・世帯数】	② 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり	4	・地域団体のネットワークの更なる構築及び活動のPR	・去年に引き続きペイタウンマラソン、行政を巻き込んだクリーン活動、こども街歩きを開催した。こどもまち歩きは、雨天のため当初予定していた行程を変更し、ペイタウンの歴史、コアの秘密を知る、という内容に変更した。	A		
24,804人、8,649世帯				・2月下旬には、千葉西警察署と連携し、自転車安全乗り方講習会を開催した。			
【町内自治会数】	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	5	・高齢者実態調査時の安心カードの啓発、普及 ・町内自治会への地域活動及び諸制度の理解及び利用促進	・高齢者実態調査にて、引き続き民生委員を通じて安心カードの配布、広報をし、H27、8月時点で当該地区の独居高齢者数186人を大幅に上回る283人に安心カードが普及した。地区部会長と地区民児協会長が見守り活動の推進や避難行動要援護者名簿の利用促進のため、18か所の町内自治会への訪問を終えた。昨年から新たに地区部会へ3自治会が加入し24自治会となった。	A		
24町内自治会				・毎月防犯委員が街路灯の確認をした。また、育成委員会と連携し、公園やメイン道路に防犯上問題がないか危険個所の確認を行った。			B
【高齢化率】				・平成28年3月21日に開催。			
7.2%	④ 防犯情報の共有・身近な防犯活動の実施	6	・防犯パトロールの充実	B			
【地域の特徴】	⑤ 地域ぐるみの防災訓練、避難誘導の実施	7	・「防災そなえパーク」の参加者を増やす		A		
東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。中心部には図書館と公民館の複合施設である「ペイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、ブルムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ペイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	⑥ 災害発生時の対応マニュアル整備	7	・災害発生時の対応マニュアルの必要性についてPR ・災害発生時の対応マニュアルの整備				・マニュアル整備を進める街区も増えてきている。整備済み街区のマニュアル等を未整備街区へ情報提供をした。
	⑫ 空き店舗等フリースペースの確保と管理運営体制の検討	1	・地域連携センター及び公民館の管理運営体制の検討	・地域連携センターの管理・運営を行う運営会議を設置した。地区部会のサロン等様々な事業の活動拠点となっている。			A
	⑬ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	1	・交流の場づくりの拡充及び検討	・地域連携センターの管理・運営を行う運営会議を設置した。地区部会のサロン等様々な事業の活動拠点となっている。	A		
	⑳ 支え合い意識の醸成	8	・福祉教育に関する勉強会の開催 ・福祉教育の内容充実を図る	・小学校では昔遊び、中学校ではEX講座を開催した。 ・福祉を身近に感じられるよう地域課題に即した講座開催のために内容・講師の情報を収集をした。			
	㉑ ボランティア人材の育成	9	・地域課題に即したボランティア講座の開催 ・街区福祉担当の地区部会活動への理解及び参加促を図る	・「認知症サポーター養成講座」(平成27年6月27日 37人参加)及び「マイナンバー制度について」(平成28年1月19日28人参加)のボランティア講座を開催した。 ・福祉を身近に感じられるような地域課題に即した講座開催のために内容・講師の情報を収集をした。			C
	㉒ ボランティア活動への参加促進	9	・地域課題に即したボランティア講座の開催 ・街区福祉担当の地区部会活動への理解及び参加促を図る	・「認知症サポーター養成講座」(平成27年6月27日 37人参加)及び「マイナンバー制度について」(平成28年1月19日28人参加)のボランティア講座を開催した。 ・福祉を身近に感じられるよう地域課題に即した講座開催のために内容・講師の情報を収集している。 ・ボランティア名簿の作成をした。近隣等の大学(神田外語大学、県立保健医療大学、淑徳大学)より学生ボランティアの協力を得た。	C		